小樽市経済動向調査結果

１．調査期間：平成30年7月から9月
２．調査対象：小樽市内の企業279社
３．内　　訳：製造業63、卸売業28、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業49
　　サービス業39、建設業36
４．回答企業数：205社（73.4％）
５．調査方法：調査票によるアンケート

※ＤＩ（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・
好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

調査業種の区分変更について
・小樽市の観光業の経済動向を把握するため、今年度から「観光・サービス業」を「観光業」と「サービス業」に分類し、全７業種の調査としました。
・前年同期は「観光業」、「サービス業」の区分で調査を行っていないため、同業種の調査結果は今期実績と来期予想のみ掲載しています。

概　　況

ー　市内景況は、悪化している　ー

前年同期（平成29年7月～9月）と比べた今期（平成30年7月～9月）の状況
今期と比べた来期（平成30年10月～12月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは▲10.8で、前年同期と比べ9.2ポイント低下しました。

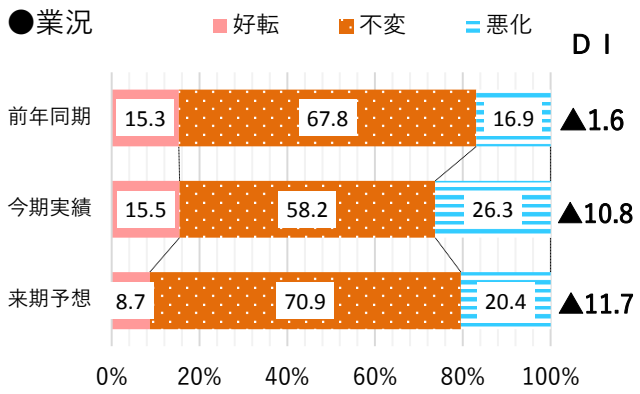
業種別DIは、製造業が同2.0ポイント上昇の▲3.7、天候不順による農産物、魚介類の不作や不漁、原材料仕入価格や燃料費の高騰が業況の悪化要因となりました。卸売業は仕入単価上昇分の価格転嫁が進まず、同2.9ポイント低下の▲12.0となりました。小売業は同1.9ポイント低下の▲12.5、天候不順による夏物商品の売上減少、原材料や包装資材の値上げが影響しました。運輸・倉庫業は原油価格の高騰や従業員不足、天候不順や９月に発生した胆振東部地震による貨物量の減少で、同15.7ポイント低下の▲33.3となりました。建設業は同17.6ポイント低下の0.0、人材不足の深刻化に伴い、工事の遅れや完成工事の伸び悩み、外注の増加が生じています。観光業は地震の影響で日本人客数、外国人客数ともに減少し、宿泊のキャンセルが多発したことで▲35.5となりました。サービス業は飲食業を中心に、地震後の停電による食品廃棄や客数減少の影響を受けたものの、飲食業以外は堅調に推移し21.5となりました。

来期の業況判断DIは▲11.7で、業況に大きな変化はないと予想しています。人材不足の解消や、原材料仕入価格の上昇、10月1日の最低賃金引き上げによる人件費の上昇が全業種共通の課題で、観光業では、地震により悪化した業況や客数の回復が遅れるとの懸念が強まっています。

業況、売上、採算

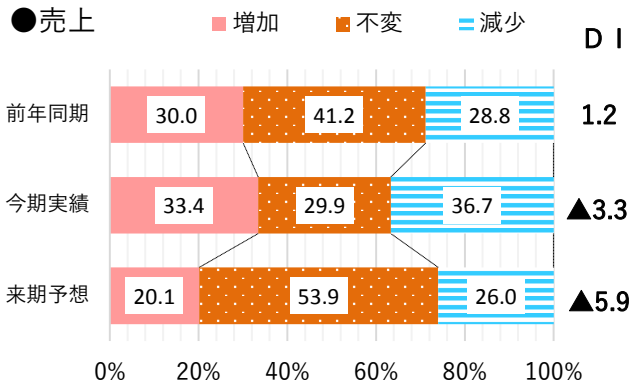
今期（H30.7～9）の業況判断DIは▲10.8で、前年同期(H29.7～9)と比べ9.2ポイント低下しました。

来期（H30.10～12）は、今期と比べ業況に大きな変化はないと予想しています。



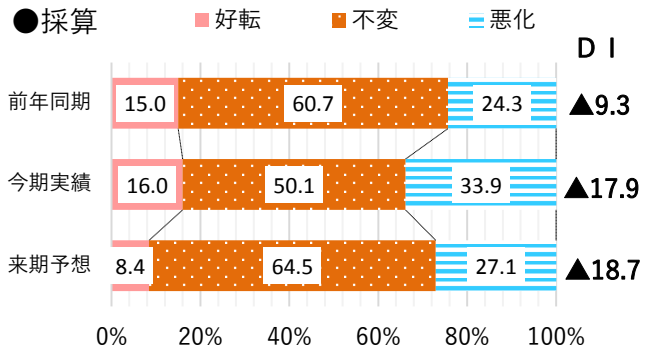
今期の売上高DIは▲3.3で、前年同期と比べ4.5ポイント低下しました。

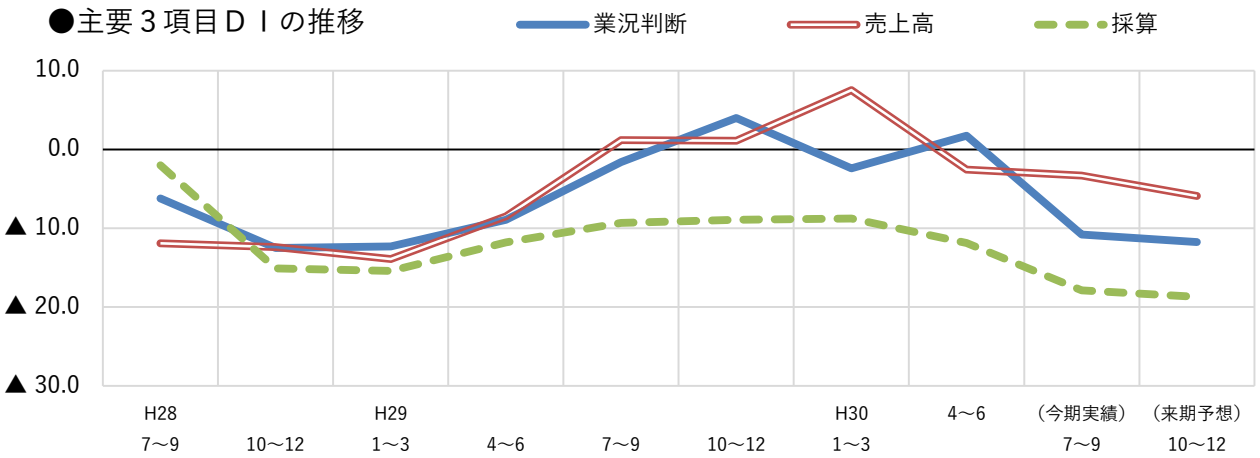
来期は、今期と比べ売上に大きな変化はないと予想しています。



今期の採算DIは▲17.9で、前年同期と比べ8.6ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ採算に大きな変化はないと予想しています。

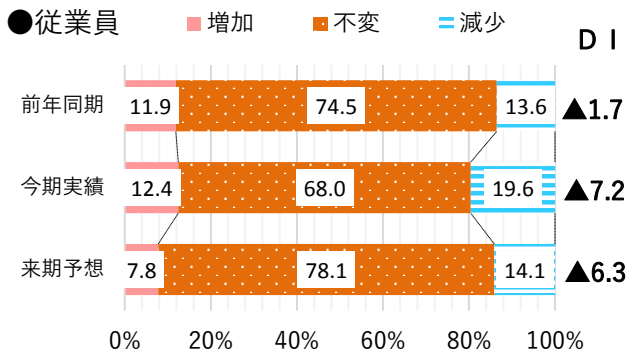




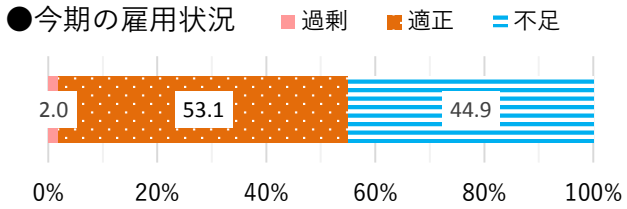
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲7.2で、前年同期と比べ5.5ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業は2.0%、適正であると回答した企業の割合は53.1%、不足していると回答した企業の割合は44.9%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、全業種の41.9%を占めています。

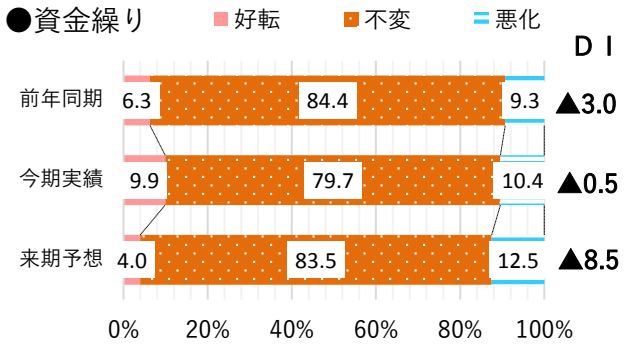
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	2
	適正	15
	不足	9
不変だった	過剰	2
	適正	86
	不足	50
減少した	過剰	0
	適正	8
	不足	33

資金繰り、設備投資

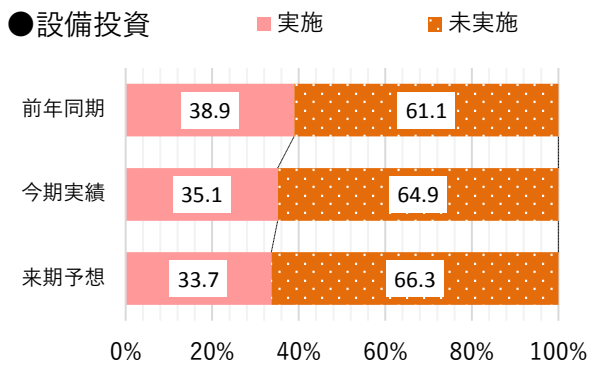
今期の資金繰りDIは▲0.5で、前年同期と比べ2.5ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ資金繰りに大きな変化はないと予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった205社の35.1％にあたる72社が実施、前年同期と比べ3.8%減少しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」「ＯＡ機器」（同位）、2位が「付帯施設」の順です。

来期は、33.7%にあたる69社が設備投資を計画していると回答しています。

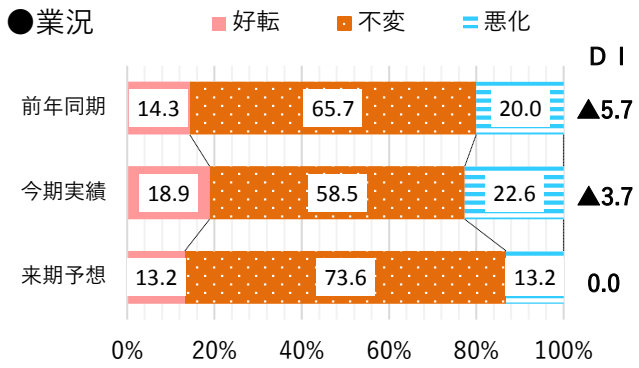


製　造　業

業況、売上、採算

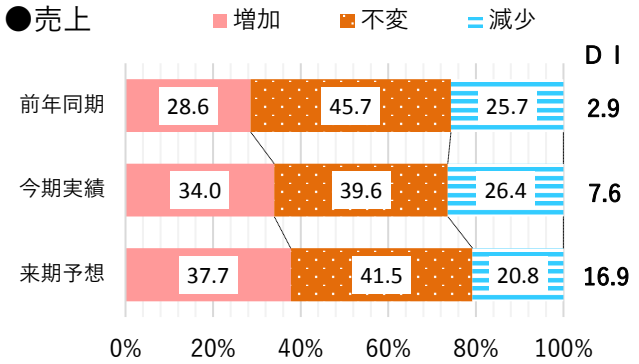
今期(H30.7～9)の業況判断DIは▲3.7で、前年同期(H29.7～9)と比べ2.0ポイント上昇しました。

来期(H30.10～12)は、今期と比べ業況に大きな変化はないと予想しています。



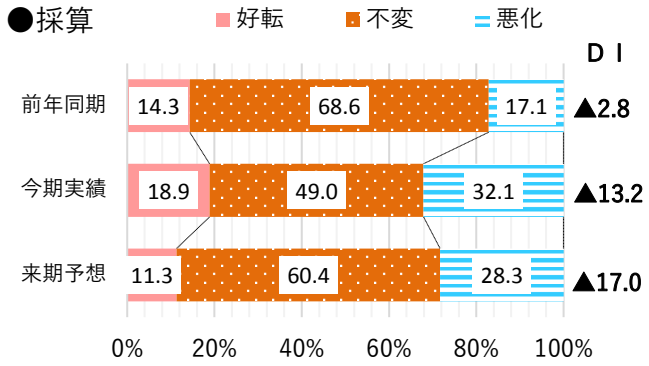
今期の売上DIは7.6で、前年同期と比べ4.7ポイント上昇しました。

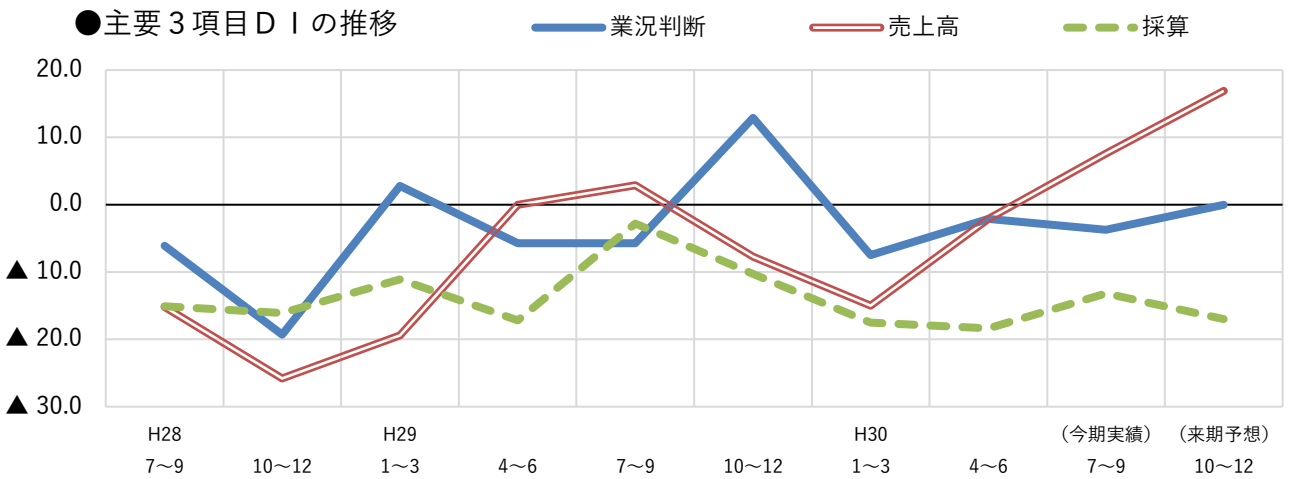
来期は、今期と比べ売上増加の動きが強まると予想しています。



今期の採算DIは▲13.2で、前年同期と比べ▲10.4ポイント低下しました。

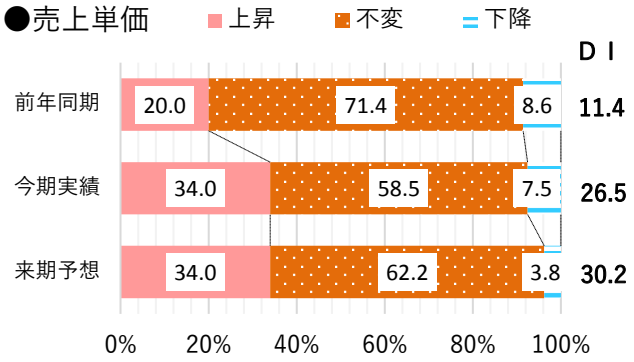
来期は、今期と比べ落ち着きの動きが出るものの、採算の悪化傾向が強まると予想しています。



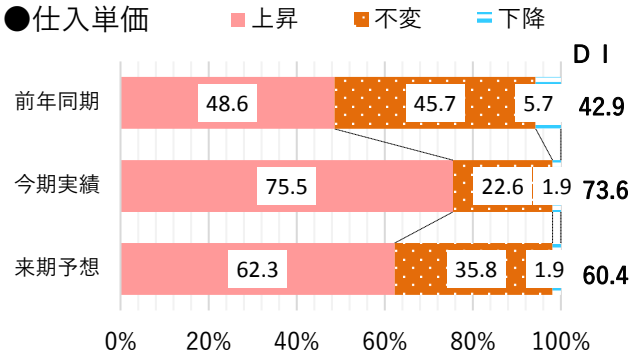


売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

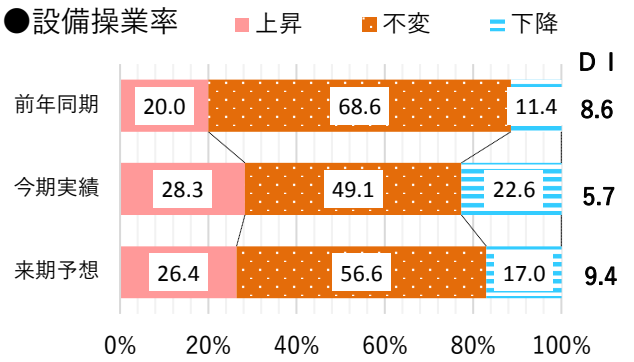
今期の売上単価DIは26.5で、前年同期と比べ15.1ポイント上昇しました。
来期は、今期と比べ売上単価に大きな変化はないと予想しています。



今期の仕入単価DIは73.6で、前年同期と比べ30.7ポイント上昇しました。
来期は、今期と比べ落ち着きの動きが出るものの、仕入単価は上昇すると予想しています。

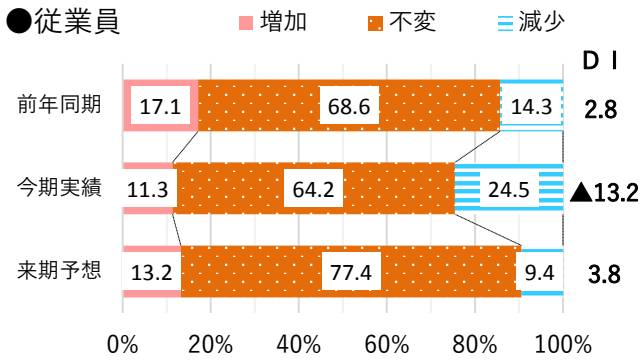


今期の設備操業率DIは5.7で、前年同期と比べ2.9ポイント低下しました。
来期は、今期と比べ設備操業率に大きな変化はないと予想しています。

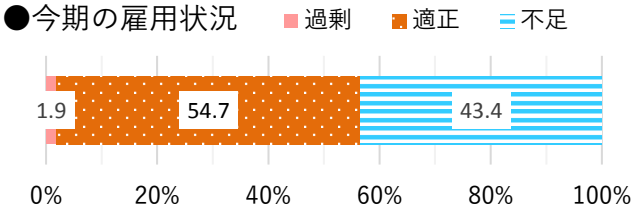


従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲13.2で、前年同期と比べ16.0ポイント低下しました。
来期は、今期と比べ従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は1.9%、適正であると回答した企業の割合は54.7%、不足していると回答した企業の割合は43.4%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、製造業全体の39.6%を占めています。

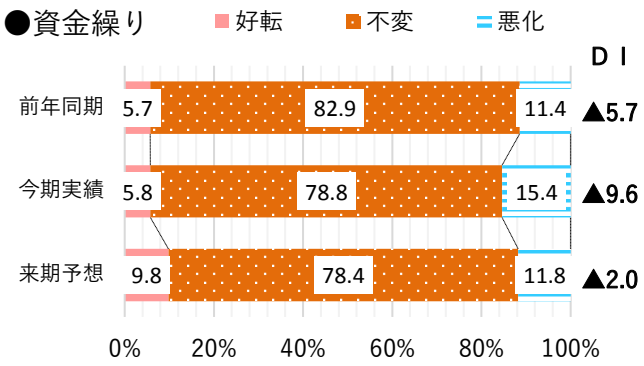
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	4
	不足	2
不変だった	過剰	1
	適正	21
	不足	12
減少した	過剰	0
	適正	4
	不足	9

資金繰り、設備投資

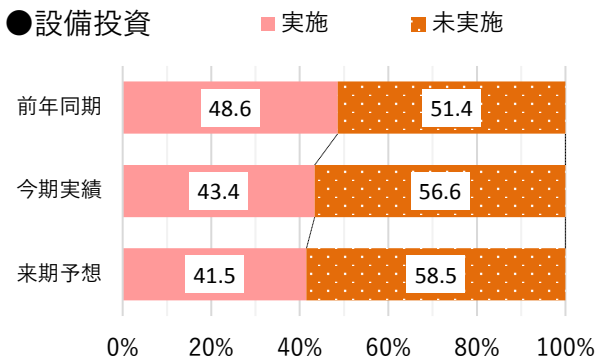
今期の資金繰りDIは▲9.6で、前年同期と比べ3.9ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ資金繰り好転の動きが強まると予想しています。



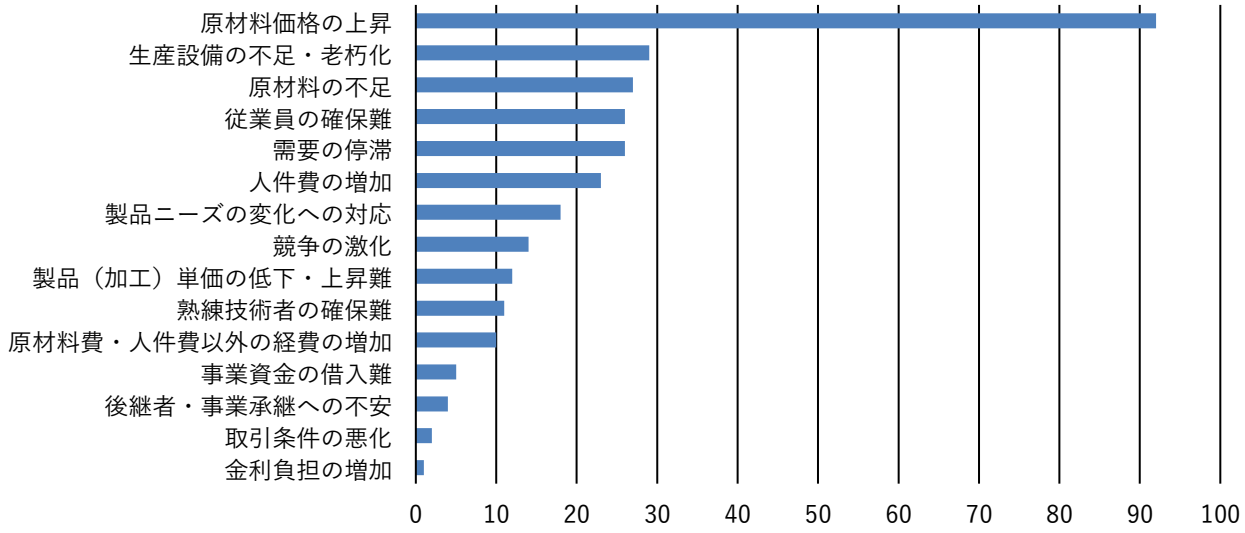
設備投資を実施した企業の割合は43.4%で、前年同期と比べ5.2%減少しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「工場建物」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は41.5%で、今期と比べ減少すると予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「生産設備の不足・老朽化」、3位が「原材料の不足」の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■夏場のスパークリングワインの販売増により、前年並みの売上を維持できた。（飲料）
■鋼材系の仕入単価が上昇しているが、売上は維持している。人材確保が課題である。（金属製品）
■７月は出荷数量、売上ともに好調で、上期決算の赤字分を一気に解消した。（金属製品）
■４月～６月期に引き続き好調を維持している。新規の引き合いが継続している。（金属製品）
■同業他社が安売りをしているため、原材料の値上がりを製品に転嫁できない。（金属製品）
■人材確保が課題である。（プラスチック）
■原油価格の値上げにより、原材料価格、電気代金も大幅に上昇したが、製品価格の値上は難航している。漁獲量、農産物収穫量の減少により、売上が減少している。（プラスチック）
■下期に売上が増加するのは例年通りの傾向だが、通年の売上は大幅増となっていない。（機械器具）
■単価は上昇傾向にある。同業他社との無理な価格競争が進み、廃業する事業者が増えてきた。（機械器具）
■人材確保のため賃金の見直しを行い、全社員の給与が上昇した。（食料品）
■新商品の販売が好調である。（食料品）
■魚卵の加工品製造に着手し、売上が増加したが、人材が確保できず、製造量の維持が難しい。（食料品）
■台風２１号後、胆振東部地震後にインバウンド向けの出荷が減少した。（食料品）
■７月～８月の天候不良、９月の震災の影響により、計画を下回る売上となった。（食料品）
■原材料価格の高騰により、販売価格を引き上げざるを得ず、イクラ等の商品は、逆ざやでの販売を余儀なくされた。人材確保、賃金上昇も厳しい状況である。（食料品）
■６月から７月中旬の天候不順により、飲料水の売上が不調だった。原材料、包装資材、副資材等の価格上昇、諸経費の上昇により、採算は悪化している。（食料品）
■主原料費、燃料費、物流コストいずれも上昇した。（食料品）

■原材料不足、原料価格高騰に加え、地震の影響で販売不振となっている。（食料品）
■原材料価格と賃金の上昇により、業況が悪化している。（食料品）
■売上は前年度比とほぼ同額。仕入原料、加工賃、外注費、物流費いずれも上昇し、利益が減少した。従業員は派遣人員を雇用して対応している。（食料品）
■９月６日の地震及びブラックアウトにより、特需という形で売上が上昇したが、天候異常による作物収穫量、漁獲量減少で、原料の確保が困難である。（食料品）
■青果物の作況が悪く、受注量が前年に比べ落ち込んでいる。（紙製品）
■主力製品の薬価改定や、自然災害により検診事業が低調な推移となったため、売上が減少した。社員が退職し、採用活動を行っているが、苦戦している。（医薬品）
■観光・イベント等により、売上が増加した。人材確保に苦慮している。（印刷）

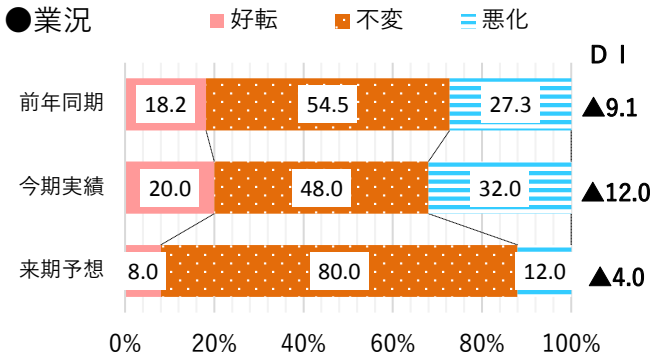
［来期の業況について］
■原料受入並びに新酒発売時期に伴い、業況活発化に期待する。（飲料）
■１０月に出荷ピークを迎え、資金繰りは順調に推移すると見ている。（金属製品）
■最低賃金の上昇は経営の圧迫要因だが、パートタイマーの人材を確保するためにやむを得ないと考える。操業合理化の努力を続けたい。（金属製品）
■先行指標を見る限り、売上、出荷は減少する見込みである。米中を中心とした世界情勢がどのように影響するのか注視する。（金属製品）
■いくつかの物件の内示を受けており、年内は堅調に推移できる見込みである。震災の影響で計画停電が実施された場合、早朝出勤などで急場を乗り切る予定である。（金属製品）
■原材料の仕入価格上昇と、人材確保難が予想される。（プラスチック）
■業界問わず人材不足のため２～３年は現状のままだろう。高齢の作業員が増加する２０２３年頃に廃業する会社が増加すると予想する。（機械器具）
■人材が確保できれば、新製品を生産したいと考えている。（食料品）
■訪日観光客が増加しなければ、厳しい状況になるだろう。（食料品）
■一部商品の値上げや、売上が振るわない商品のリニューアルを通じ、利益率回復を図る。（食料品）
■人材確保難、賃金の上昇による影響が一段と増し、副材（資材、運賃等）の価格上昇が予想される。一方、販路拡大により売上が増える見込み。（食料品）
■仕入価格、諸経費に関連するもので低下が予想されるものはなく、売価に反映させようとしても小売、卸売の抵抗が強いため、採算面の厳しさが増す見込みである。（食料品）
■地震の影響でインバウンド中心に観光客の減少が懸念される。（食料品）
■年末に向かい生産単位が増えるため、現場人員の手配と確保が必要となる。来期は後手に回らないように製品ごとの工数管理を行い、コスト上昇の対策に注力して現状維持に努めたい。（食料品）
■需要期に入るため、今期より受注量が増える見込みである。（紙製品）
■商品価格の値上げにより、原材料仕入単価等の上昇に対応したい。（紙製品）
■健保組合の赤字化の拡大傾向や、職場健診の受診年齢引き上げ、受診間隔の延長が進んでおり、売上の減少が懸念される。（医薬品）
■原材料仕入単価の上昇が予想される。（印刷）
■売上等は今期と変わらない予想であるが、人材不足は続く見込み。（印刷）

卸　売　業

業況、売上、採算

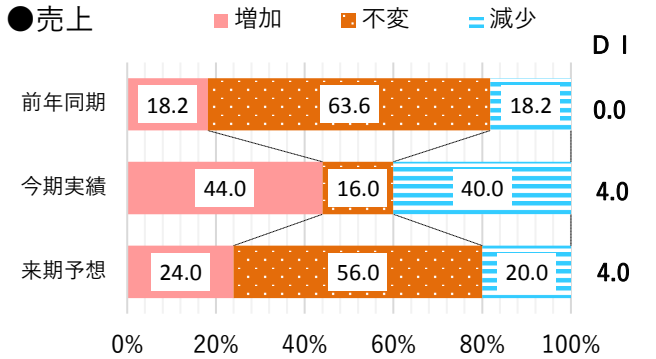
今期(H30.7～9)の業況判断DIは▲12.0で、前年同期(H29.7～9)と比べ2.9ポイント低下しました。

来期(H30.10～12)は、今期と比べ業況に大きな変化はないと予想しています。



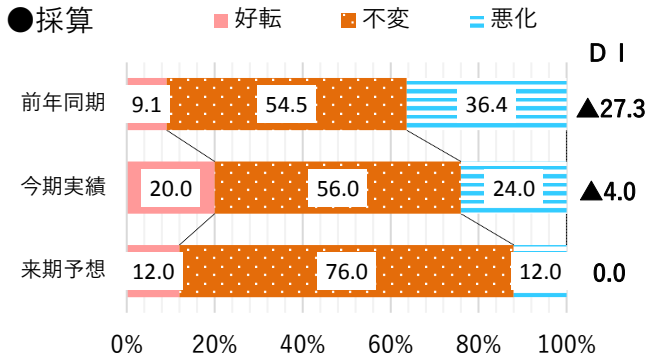
今期の売上DIは4.0で、前年同期と比べ4.0ポイント上昇しました。

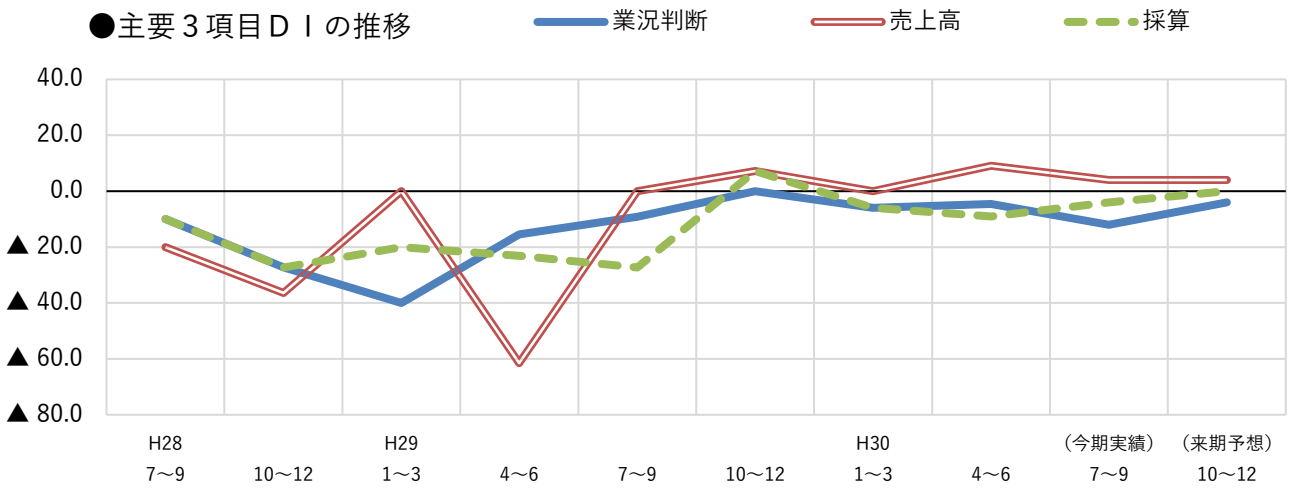
来期は、今期と比べ売上に大きな変化はないと予想しています。



今期の採算DIは▲4.0で、前年同期と比べ23.3ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ採算に大きな変化はないと予想しています。

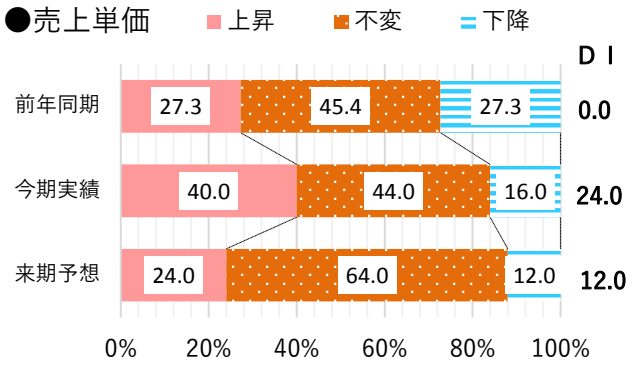




売上単価、商品仕入単価

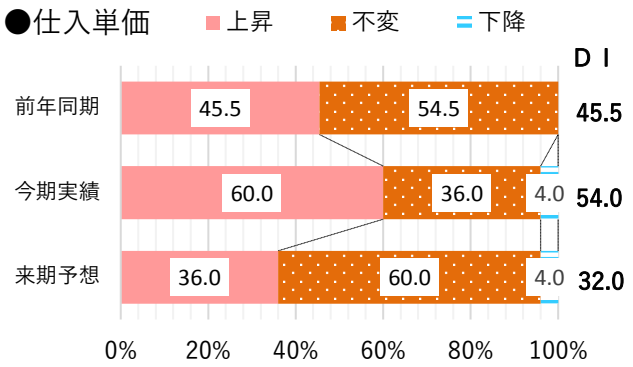
今期の売上単価DIは24.0で、前年同期と比べ24.0ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ売上単価に大きな変化はないと予想しています。



今期の仕入単価DIは54.0で、前年同期と比べ8.5ポイント上昇しました。

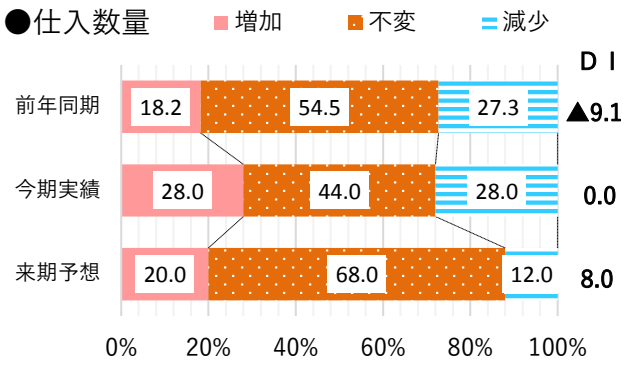
来期は、今期と比べ落ち着きの動きが出るものの、上昇傾向が続くと予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

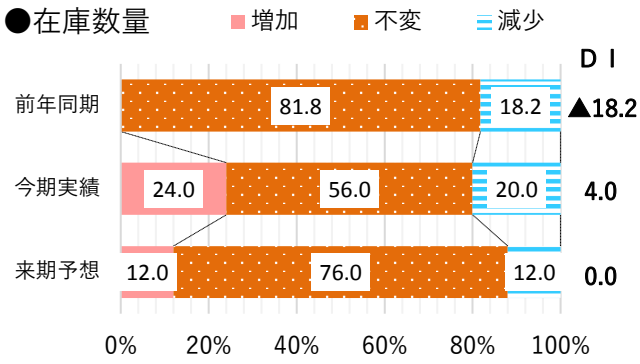
今期の仕入数量DIは0.0で、前年同期と比べ9.1ポイント上昇しました。

来期は8.0で、今期と比べ仕入数量に大きな変化はないと予想しています。



今期の在庫数量DIは4.0で、前年同期と比べ22.2ポイント上昇しました。

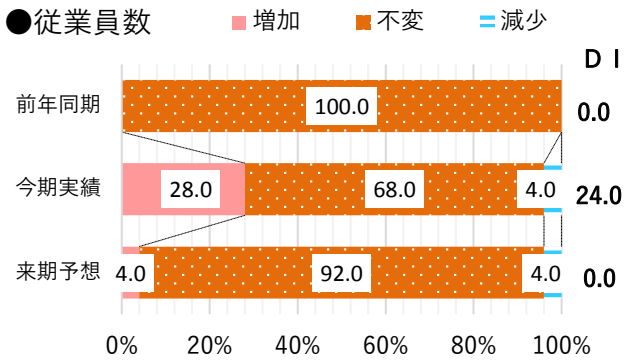
来期は、今期と比べ在庫数量に大きな変化はないと予想しています。



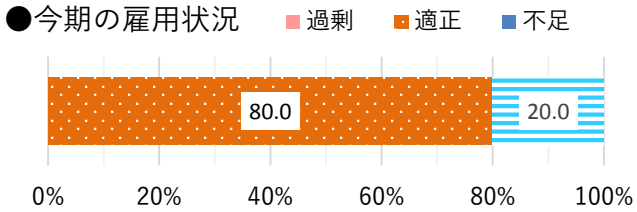
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは24.0で、前年同期と比べ24.0ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ従業員数増加の動きが弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は80.0％、不足していると回答した企業の割合は20.0％でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の64.0を占めています。

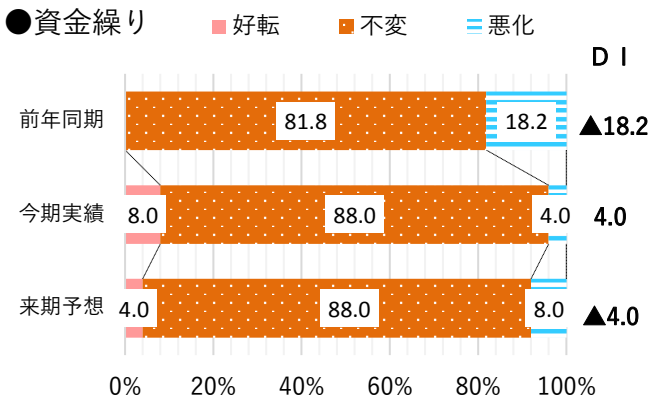
次いで多かった回答のは「従業員数は前年同期比で増加し、充足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	4
	不足	3
不変だった	過剰	0
	適正	16
	不足	1
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	1

資金繰り、設備投資

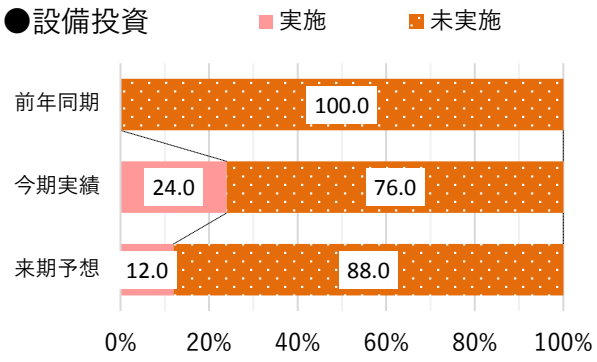
今期の資金繰りDIは4.0で、前年同期と比べ22.2ポイント上昇しました。

来期は▲4.0で、今期と比べ資金繰りが悪化すると予想しています。



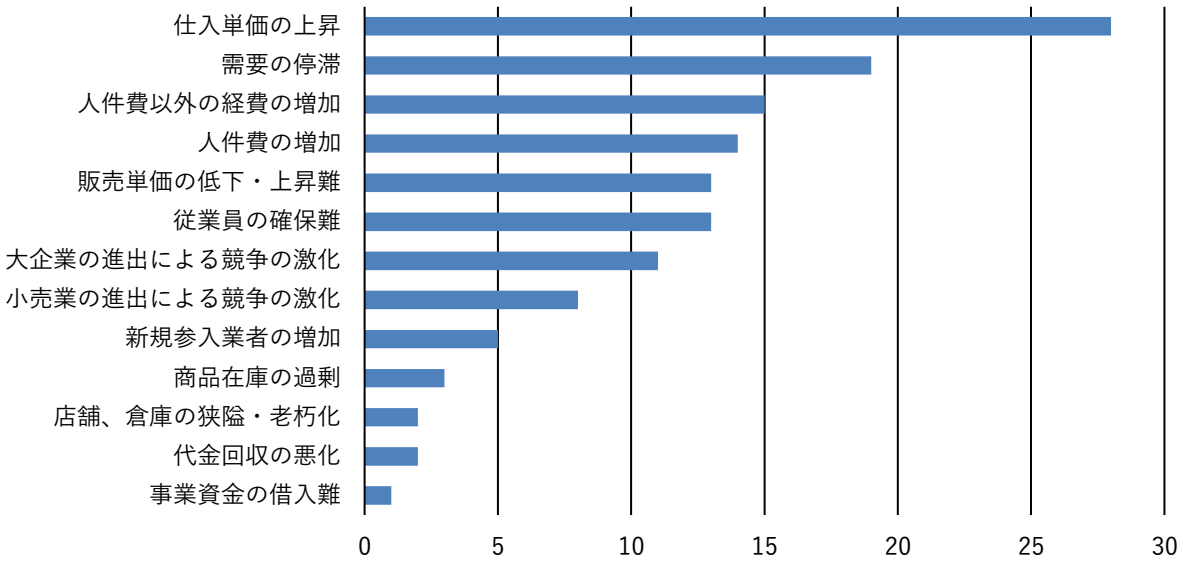
設備投資を実施した企業の割合は24.0%で、前年同期と比べ24.0%増加しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、「付帯施設」、「ＯＡ機器」（同位）、2位が「店舗」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は12.0%で、今期と比べ減少すると予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「需要の停滞」、3位が「人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■漁獲量不良、天候不順により、調味料、飲料水などの売上が伸び悩んだ。（食料・飲料卸売）

■予算には届いていないが、前年度比で売上が増加した。人材確保への増資や、車両費等の経費圧縮ができず、利益は減少した。（食料・飲料卸売）

■外食産業向け商品の売上が減少した。人材確保に苦労している。（食料・飲料卸売）

■北海道新幹線工事の本格化に伴い、材料の納入が増加している。（建築材料卸売）

■資源不足、材料不足により、仕入価格が上昇している。（建築材料卸売）

■仕入価格が上昇したが、上昇分を価格に転嫁できていない。（石油卸売）

■３か月連続で業況が悪化した。売上は前年と比べ２％程度の落ち込みだが、仕入単価が上昇しているため、粗利益が１割程度落ち込み、苦戦している。（鉱物・金属材料卸売）

■売上単価が上昇し、利益が増加した。（塗料卸売）
■学校の夏休みシーズンと重なるため、商品の売上が減少した。（事務用品）

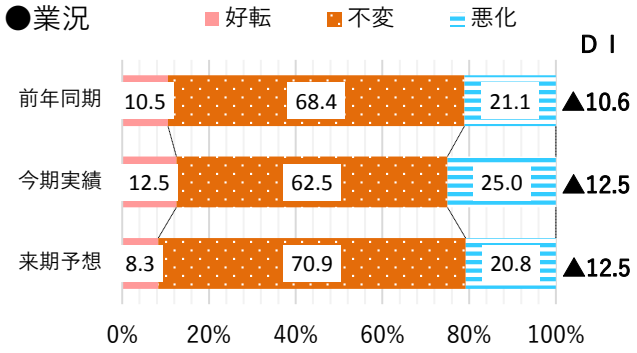
［来期の業況について］
■日照不足等の影響で、道内農産物が不作となり、価格上昇が予想される。（飲料・食料卸売）
■道内商流機能７割の物流拠点が今期の震災で被害を受け、機能が回復できていない。需給のバランスが保てなければ、業績悪化、売上減少も予想される。（飲料・食料卸売）
■北海道新幹線工事と高規格道路工事の本格化に伴い、材料納入量増加の見通しである。（建築材料卸売）
■人材を確保できず、外食産業向け商品の売上が減少する見込みである。（食料・飲料卸売）
■工事が進まず、販売量減少が予想される。（鉱物・金属材料卸売）
■今期の好調を維持したい。新規開拓を通じ、売上の増加を目指す。（塗料卸売）
■事務所移転や新築を計画中の取引先への納入により、売上増加を見込んでいる。（事務用品）

小　売　業

業況、売上、採算

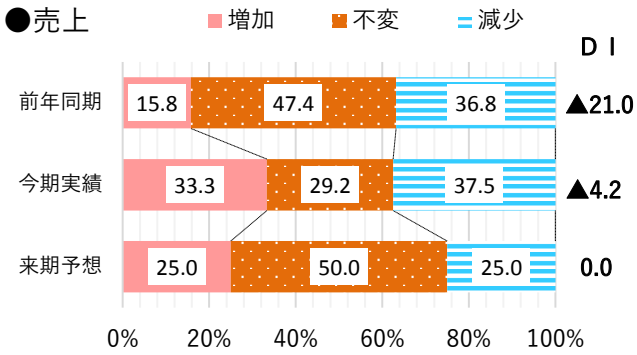
今期(H30.7～9)の業況判断DIは▲12.5で、前年同期(H29.7～9)と比べ1.9ポイント低下しました。

来期(H30.10～12)は、今期と比べ業況に大きな変化はないと予想しています。



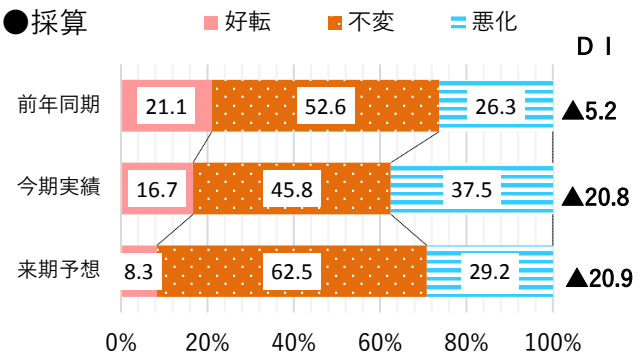
今期の売上高DIは▲4.2で、前年同期と比べ16.8ポイント上昇しました。

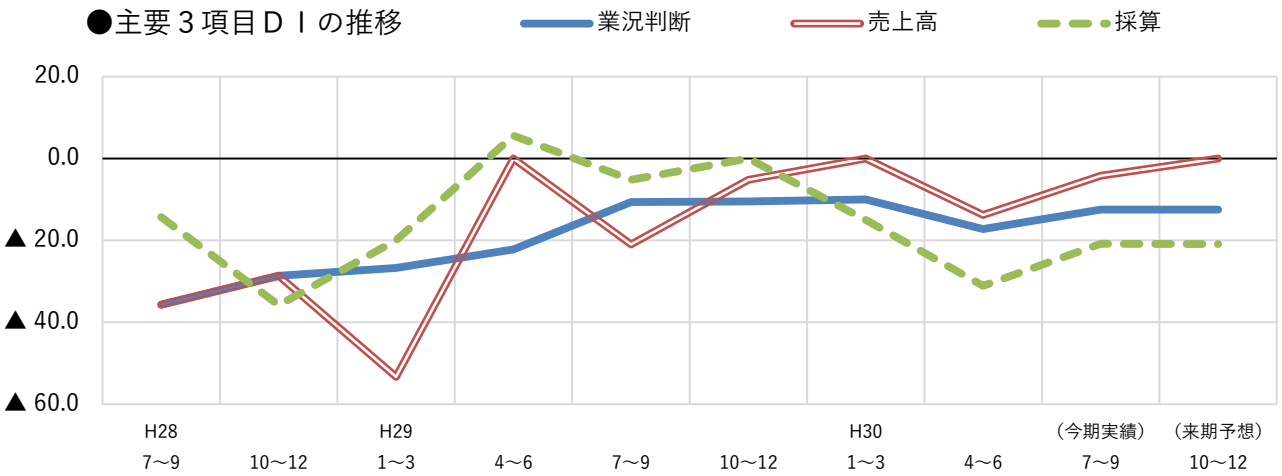
来期は、今期と比べ売上に大きな変化はないと予想しています。



今期の採算DIは▲20.8で、前年同期と比べ15.6ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ採算に大きな変化はないと予想しています。

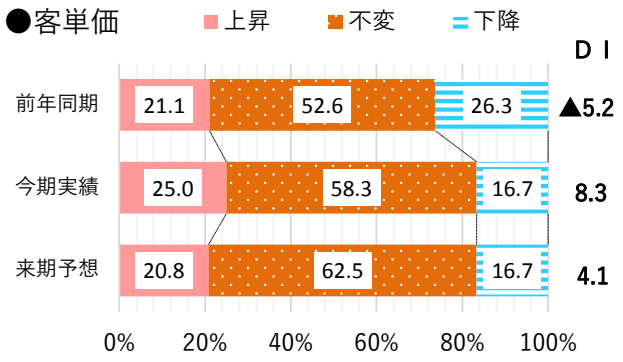




客単価、客数

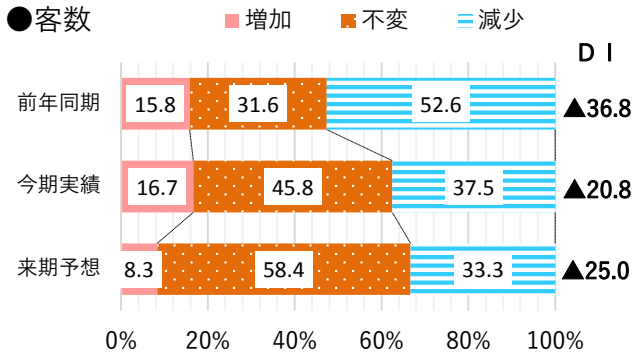
今期の客単価DIは8.3で、前年同期と比べ13.5ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ客単価に大きな変化はないと予想しています。



今期の客数DIは▲20.8で、前年同期と比べ16.0ポイント上昇しました。

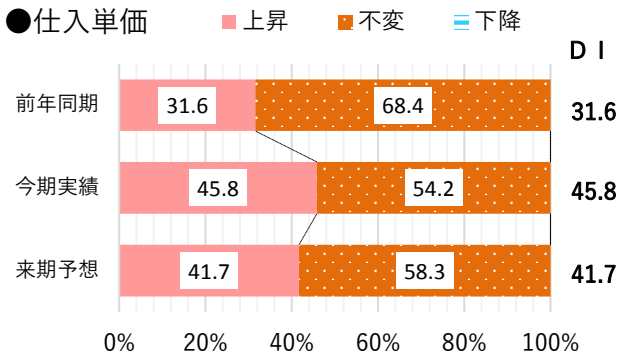
来期は▲25.0で、今期と比べ落ち着きの動きが出るものの、客数の減少傾向が続くと予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

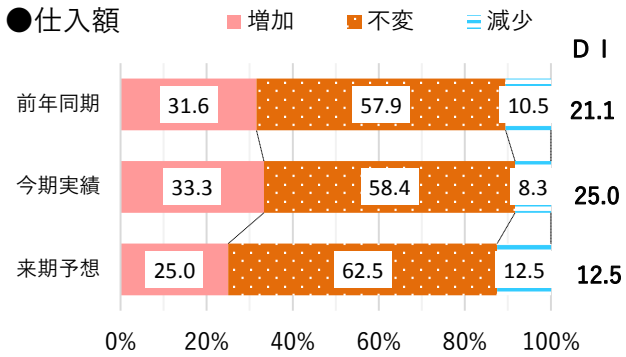
今期の仕入単価DIは45.8で、前年同期と比べ14.2ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ落ち着きの動きが出るものの、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



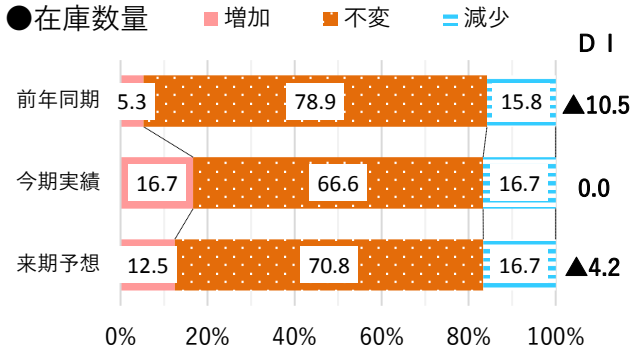
今期の仕入額DIは25.0で、前年同期と比べ3.9ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ仕入額に大きな変化はないと予想しています。



今期の在庫数量DIは0.0で、前年同期と比べ10.5ポイント上昇しました。

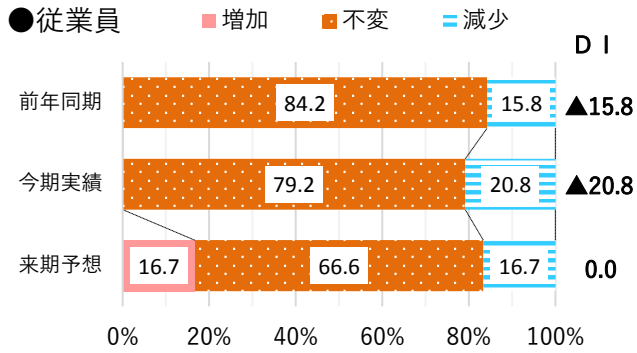
来期は、在庫数量に大きな変化はないと予想しています。



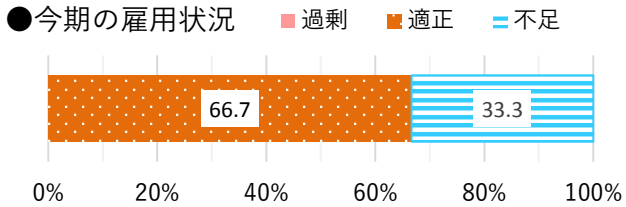
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲20.8で、前年同期と比べ5.0ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数の増加傾向が強まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は66.7%、不足していると回答した企業の割合は33.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、小売業全体の62.5%を占めています。

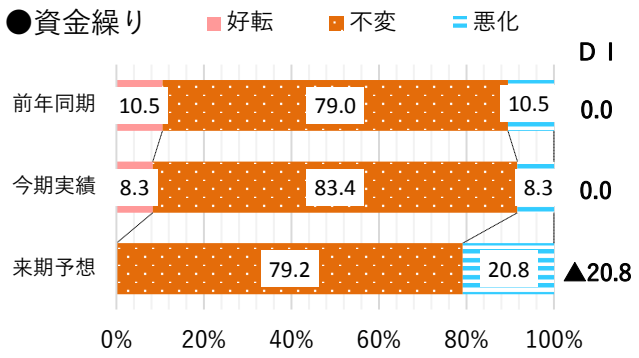
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」（同位）という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	15
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	4

資金繰り、設備投資

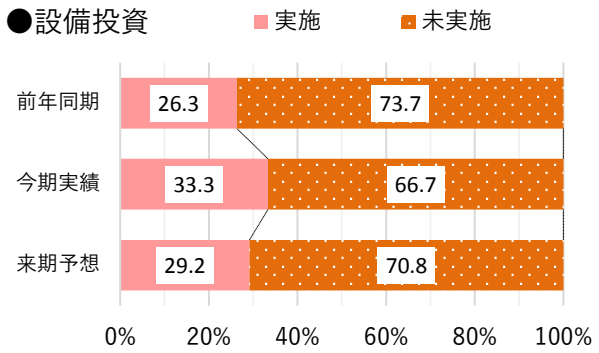
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期比で横ばいとなりました。

来期は、今期と比べ資金繰りの悪化を予想しています。



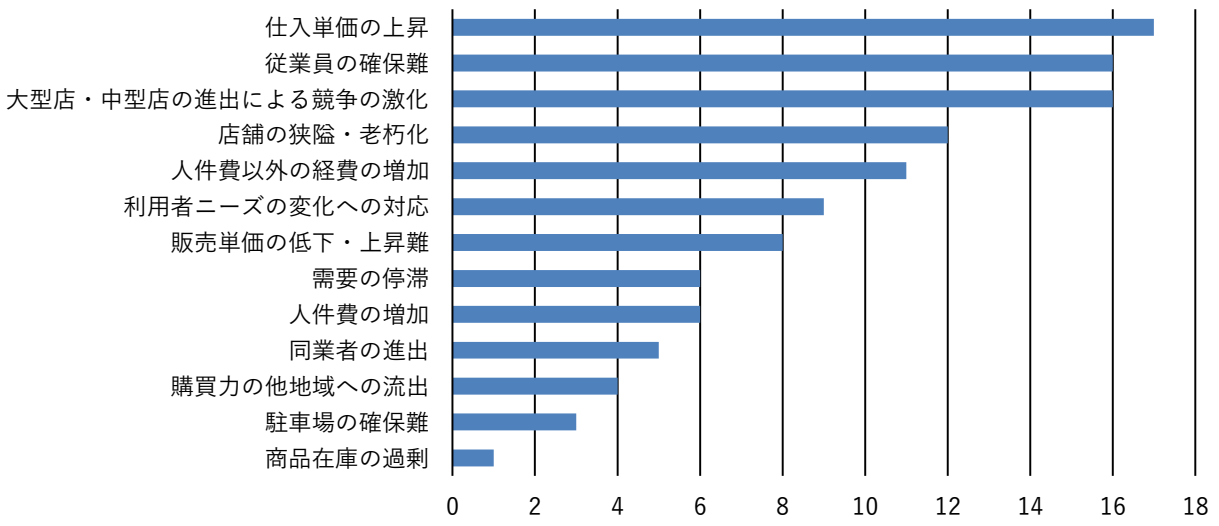
設備投資を実施した企業の割合は33.3%で、前年同期と比べ7.0%増加しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、「その他」（同位）、2位が「ＯＡ機器」、「販売設備」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は29.2%で、今期と比べ減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「仕入単価の上昇」、2位が「従業員の確保難」、「大型店・中型店の進出による競争の激化」（同位）、3位が「店舗の狭隘・老朽化」の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■ＷＥＢ販売が伸び悩んだ。（食料品小売）
■高齢化とともに、子育てが終わった世代の食生活が「大量の食糧」から「少量の良いもの」に変わってきたと感じる。（食料品小売）
■お盆以降、売上が停滞した。（菓子製造小売）
■原材料と包装資材の値上がりが相次いでおり、商品の仕入で送料負担を求められることがあった。（菓子製造小売）
■７、８月の多雨の影響で、売上が下降した。（食肉小売）
■天候等で仕入が困難になり、仕入額も大幅に増加した。（花・植木小売）
■札幌からの来客が増加した。（衣服・身の回り品小売）
■客数は不変で、客単価は上昇した。お買得品を中心に売上が伸びている。（自動車小売）
■客数が減少した。（自動車小売）
■営業費の上昇により、利益の確保が難しい。（コンビニ）
■客数減少、客単価低下により、売上が減少した。（ドラッグストア）
■リフォーム用一般向け用品の売上が好調である。（ホームセンター）
■原油価格が上昇している。（燃料小売）
■採用難が続き、現場での通常業務が手薄である。業績とともに数値的には悪循環となっている。（大型店）
■客数、客単価の減少が売上の減少に直結している。（大型店）
■地震の影響で客数が減少した。（陶磁器・ガラス器小売）

［来期の業況について］

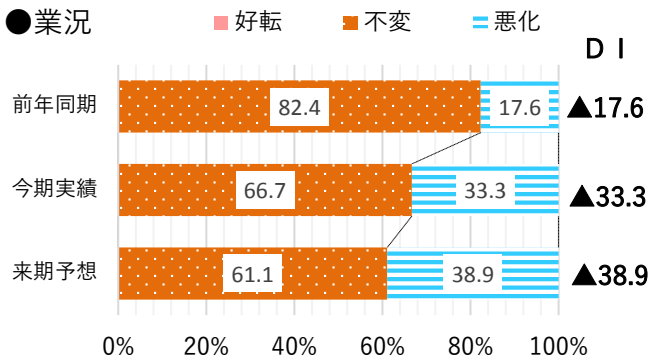
■観光関連、飲食業界への納入は微増の予測。店頭販売は不透明だが変動がない見込み。（食料品小売）
■オリジナル商品の拡販に努める。（食料品小売）
■北海道物産展の準備で忙しくなると期待している。（菓子製造小売）
■最低賃金が改定されるため、人件費の上昇への対応が課題となるだろう。（菓子製造小売）
■従業員の賃金が上昇する。また、新しいライバル店の登場で売上の減少が見込まれる。（食肉小売）
■商品に幅をもたせて集客したい。（衣服・身の回り品小売）
■後継者が自社で働き始めるため、従業員が増える予定である。（衣服・身の回り品小売）
■人手不足が懸念される。（自動車小売）
■最低賃金の上昇が課題である。（自動車小売）
■最低賃金が上昇する影響で、利益確保が更に難しくなると予想する。（コンビニ）
■業況の好転は期待できない。（ドラッグストア）
■売上の上昇を予想している。（ホームセンター）
■前期同様引き続き原油価格が上昇する見込みである。（燃料小売）
■マーケット自体の拡大は見込めないため、同業他社との競争を優位に進めることに専念する。また、コスト削減の一方で、必要人員の確保を行う。（大型店）
■強化部門の新たな取り組みを行い、来店頻度を高めるよう努力する。（大型店）

運輸・倉庫業

業況、売上、採算

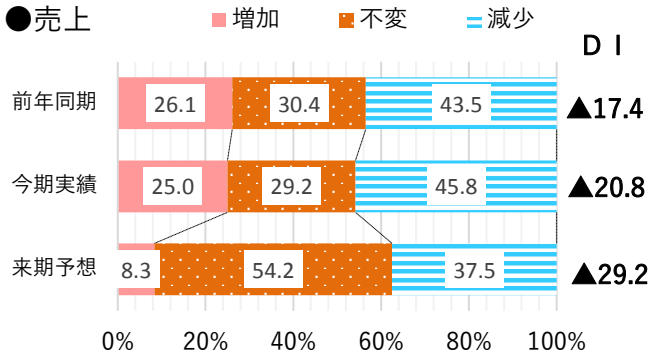
今期（H30.7～9）の業況判断DIは▲33.3で、前年同期（H29.7～9）と比べ15.7ポイント低下しました。

来期（H30.10～12）は、今期と比べ業況悪化の動きが強まると予想しています。



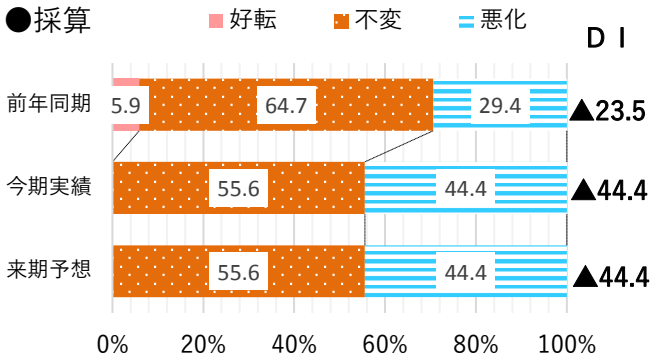
今期の売上高DIは▲20.8で、前年同期と比べ3.4ポイント低下しました。

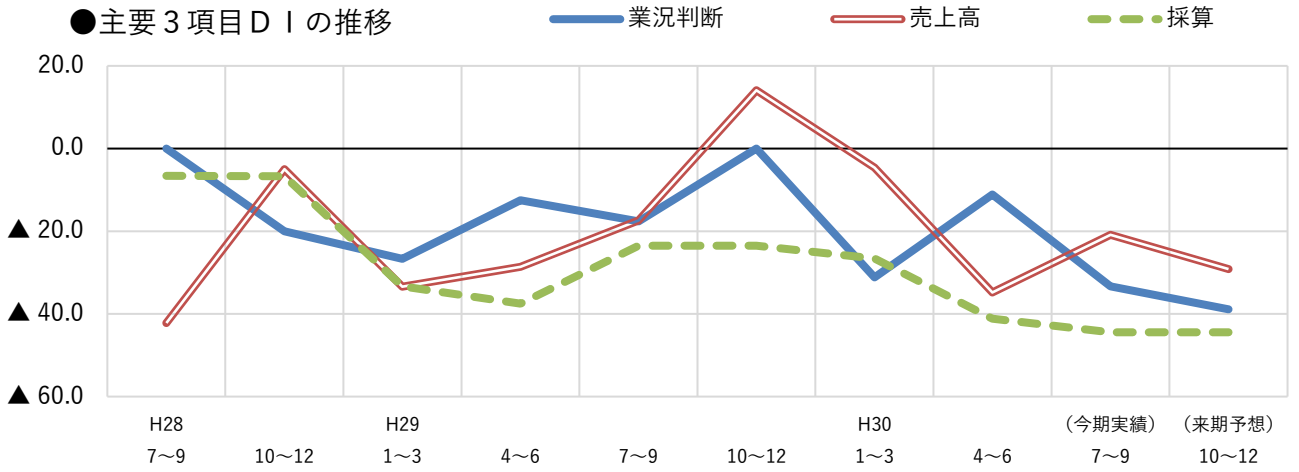
来期は、今期と比べ落ち着きの動きが出るものの、売上の減少傾向が強まると予想しています。



今期の採算DIは▲44.4で、前年同期と比べ20.9ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ採算に大きな変化はないと予想しています。

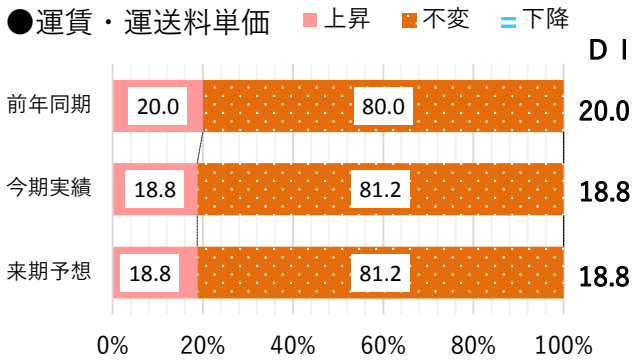




運賃・運送料単価、保管料単価

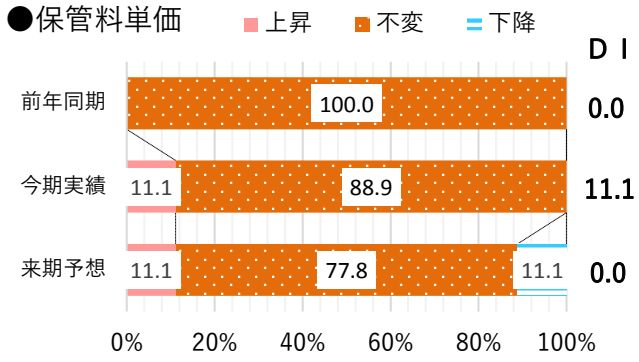
今期の運賃・運送料単価DIは18.8で、前年同期と比べ1.2ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ運賃・運送料単価の横ばいを予想しています。



今期の保管料単価DIは11.1で、前年同期と比べ11.1ポイント上昇しました。

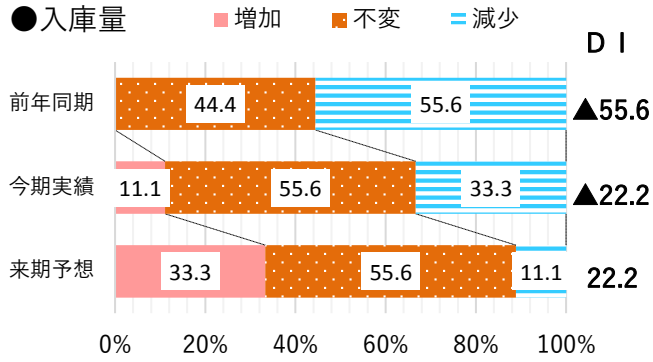
来期は、今期と比べ保管料単価下降の動きが強まると予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

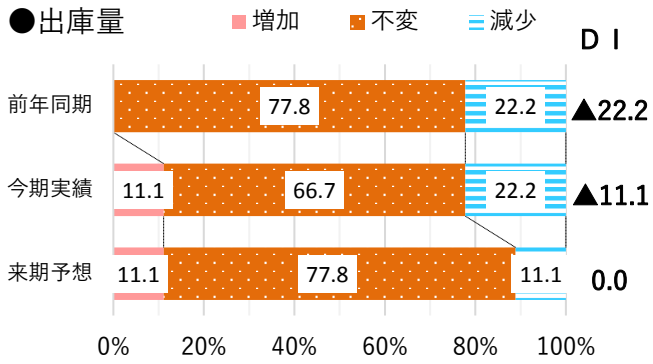
今期の入庫量DIは▲22.2、前年同期と比べ33.4ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ入庫量は増加すると予想しています。



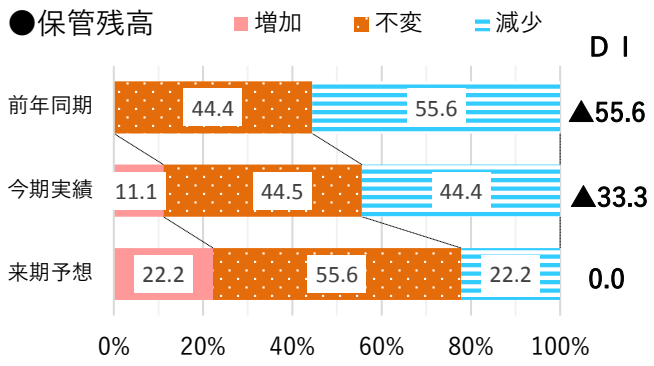
今期の出庫量DIは▲11.1で、前年同期と比べ11.1ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ出庫量減少の動きが弱まると予想しています。



今期の保管残高DIは▲33.3で、前年同期と比べ22.3ポイント上昇しました。

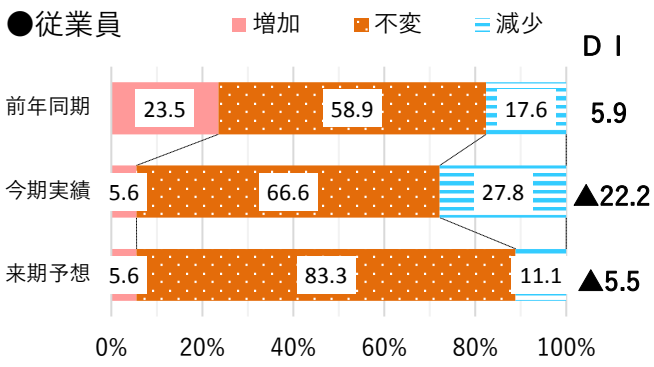
来期は、今期と比べ保管残高増加の動きが強まると予想しています。



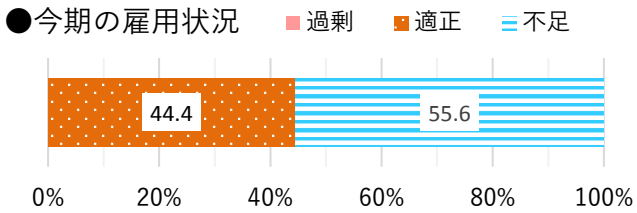
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲22.2で、前年同期と比べ28.1ポイント低下しました。

来期は、今期の現状を維持する傾向が強まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は44.4%、不足していると回答した企業の割合は55.6%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、運輸・倉庫業全体の38.8%を占めています。

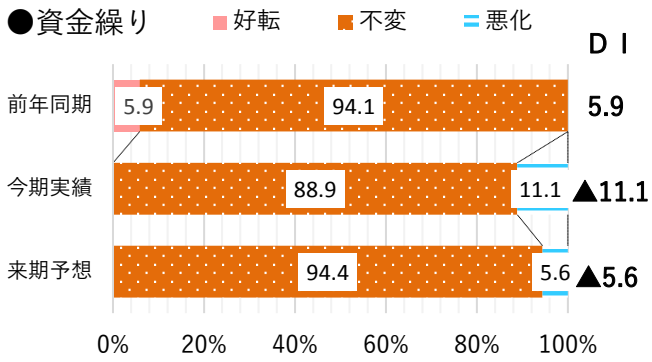
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	7
	不足	5
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	4

資金繰り、設備投資

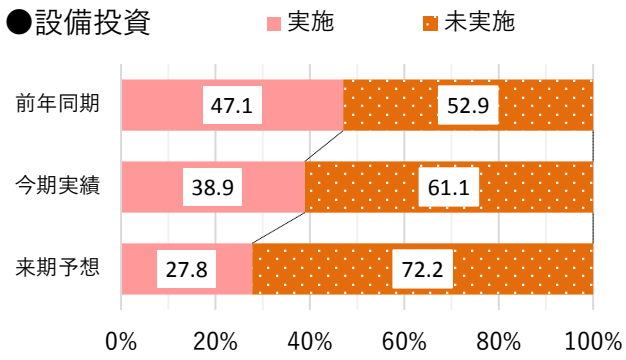
今期の資金繰りDIは▲11.1で、前年同期と比べ17.0ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ資金繰りに大きな変化はないと予想しています。



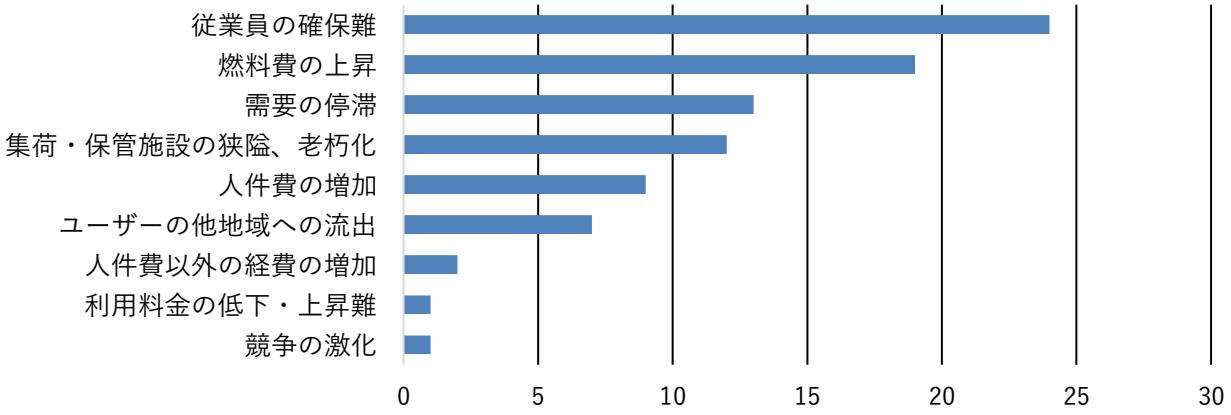
設備投資を実施した企業の割合は38.9%で、前年同期と比べ8.2%減少しました。投資内容は、1位が「付帯施設」、2位が「輸送機材」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は27.8%で、今期と比べ減少すると予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「燃料費の上昇」、3位が「需要の停滞」の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■燃料の高騰が進行している。（道路旅客運送）

■売上は前年並みだが、燃料の高騰により利益増加につながらない。胆振東部地震は今期最大の負の要素である。（道路旅客運送）

■天候不順により農作物の運送量が減少している。（道路貨物運送）

■燃料費が高騰している。（道路貨物運送）

■運転手が不足している。（道路貨物運送）

■労働時間の短縮により売上が減少している。（道路貨物運送）

■昨年度の業況がとても良かったためか、とても悪化しているように感じる。従業員の高齢化が進んでいる。ドライバーの待遇について良くないイメージがあるのではないかと心配している。（道路貨物運送）

■貨物減少により、入庫量及び輸送量が減少した。（道路貨物運送）

■燃料費が高騰した。工期の遅れ等により、運送量が減少した。（道路貨物運送）

■入庫量減少により、売上額が減少。また、人材確保が課題である。（倉庫）

■長雨、台風、地震による影響で売上が減少した。（水運）

■昨年の新造船効果の反動により売上が減少した。（水運）

■貨物の売上は、ＢＡＦ上昇による単価改定で増加した。（水運）

※BAF：Bunker Adjustment Factorの略称で、燃料価格の変動に対して調整される割り増し料金のこと。

［来期の業況について］

■前年より貨物量が減少する見込みである。（道路貨物運送）

■燃料費の上昇傾向が続くなら、厳しい状況が予想される。（道路貨物運送）

■冬前に仕事の受注が増える見込みである。（道路貨物運送）

■人材不足が懸念される。（道路旅客運送）

■営業区域の人口減により減収が予想される。（道路旅客運送）

■燃料費の高止まりが続くと収益悪化につながる。（道路旅客運送）

■燃料費の高止まりを予想する。（道路旅客運送）

■更なる入庫量の減少が懸念される。（倉庫）

■今期が農産物出荷のピーク期になることから来期は売上が減少すると予想する。（水運）

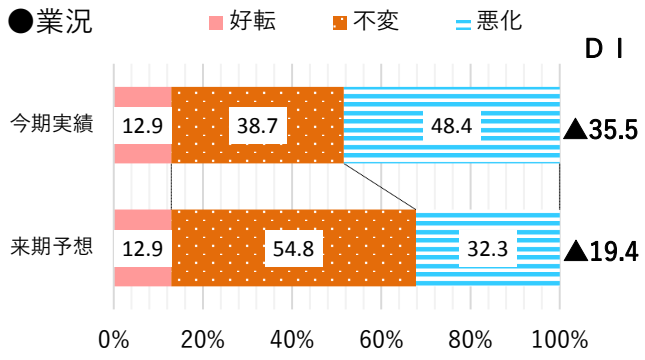
観光業

※観光業には、前年同期比のデータを記載しておりません。

業況、売上、採算

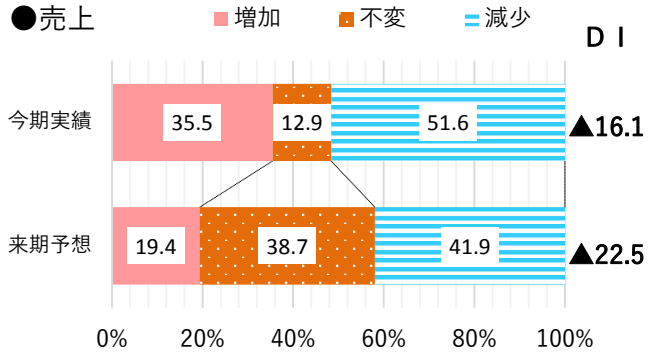
今期（H30.4～6）の業況判断DIは▲35.5となりました。

来期は、今期と比べ業況の悪化傾向が強まると予想しています。



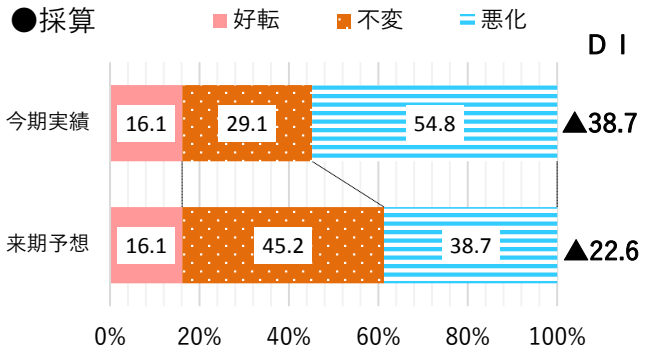
今期の売上高DIは▲16.1となりました。

来期は、今期と比べ落ち着きの動きが出るものの、売上の減少傾向が強まると予想しています。



今期の採算DIは▲38.7となりました。

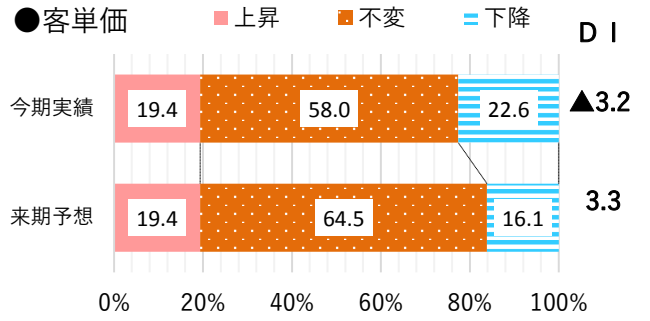
来期は、今期と比べ採算の悪化傾向が強まると予想しています。



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

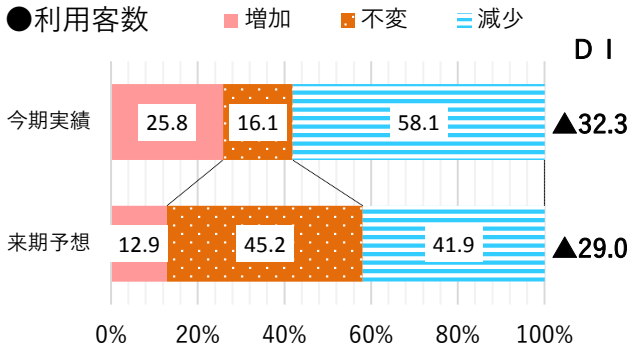
今期の客単価DIは▲3.2となりました。

来期は、今期と比べ客単価に大きな変化はないと予想しています。



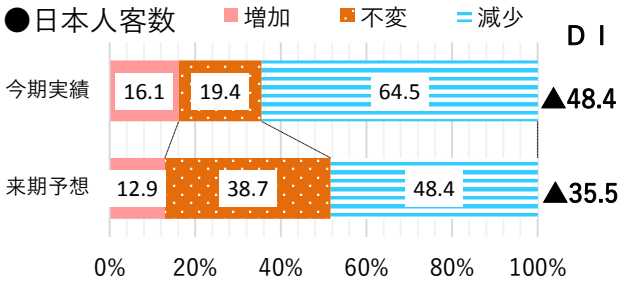
今期の利用客数DIは▲32.3となりました。

来期は、今期と比べ利用客数の減少傾向が緩和されると予想しています。



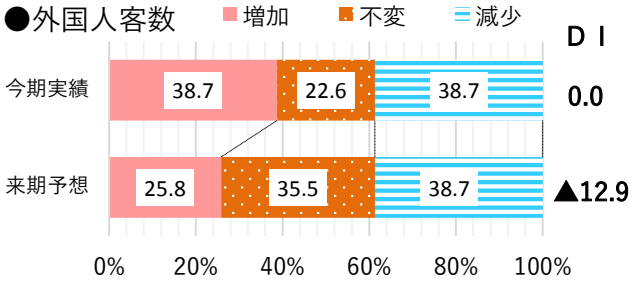
今期の日本人客数DIは▲48.4となりました。

来期は、今期と比べ日本人客数の減少傾向が緩和されると予想しています。



今期の外国人客数DIは0.0となりました。

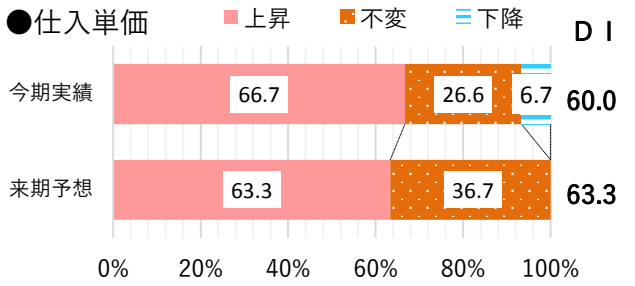
来期は、今期と比べ外国人客数増加の動きが鈍ると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは60.0となりました。

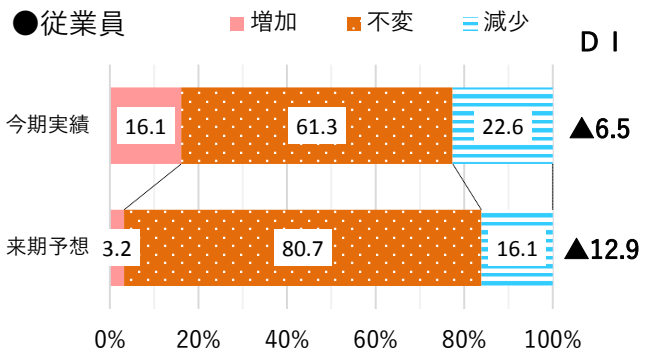
来期は、今期と比べ落ち着きの動きが出るものの、仕入単価は上昇すると予想しています。



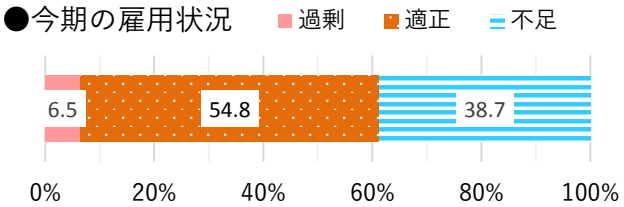
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲6.5となりました。

来期は、今期と比べ従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は6.5％、適正であると回答した企業の割合は54.8％、不足していると回答した企業の割合は38.7％でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、観光業全体の41.9%を占めています。

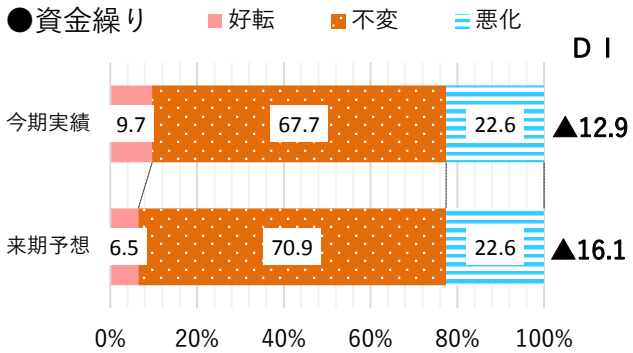
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	2
	適正	2
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	13
	不足	6
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	5

資金繰り、設備投資

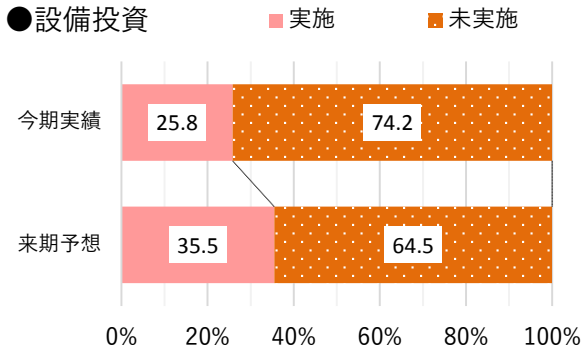
今期の資金繰りDIは▲12.9となりました。

来期は、今期と比べ資金繰りに大きな変化はないと予想しています。



設備投資を実施した企業の割合は25.8%となりました。投資内容は、1位が「建物」、2位が「サービス設備」、「付帯施設」（同位）の順です。

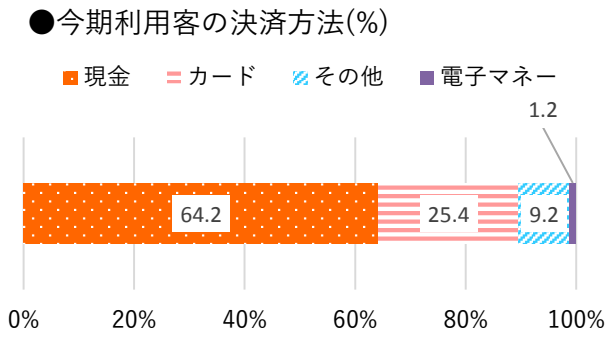
来期に設備投資を計画している企業の割合は35.5％で、今期と比べ増加すると予想しています。



今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で64.2％、2位がカードで25.4％、3位がその他で9.2％、4位が電子マネーで1.2％となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、AlipayやWeChatPayなどのモバイル決済、商品券、売掛、旅行代理店からの銀行振込やクーポン清算です。

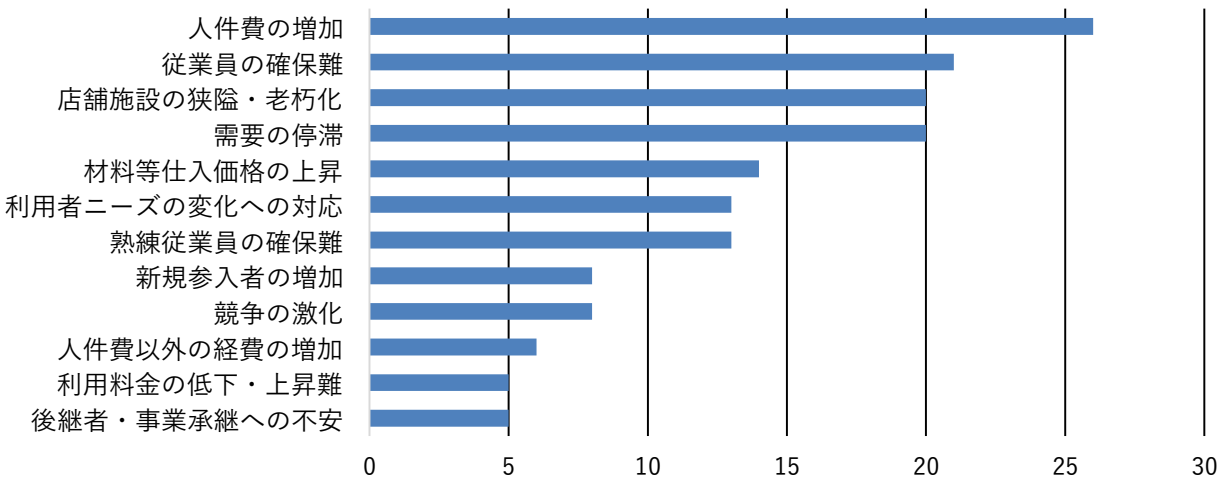


客室稼働率

今期調査で回答があった企業のうち、宿泊業に該当する10社の平均客室稼働率は74.0%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「人件費の増加」、2位が「従業員の確保難」3位が「店舗施設の狭隘・老朽化」、「需要の停滞」（同位）の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■客単価（販売価格）が上昇した。（ホテル）
■インバウンド客が増加した。（ホテル）
■地震のため、宿泊客が減少した。（ホテル）
■震災の影響で外国人客の減少が見られた。中国人客は回復傾向にあるが、韓国人客の回復は見られない。（ホテル）
■地震の影響によるキャンセルの多発により売上が減少した。宿泊数の減少を補うために宿泊単価の割引を行った。（ホテル）
■地震のためキャンセルが相次いだ。（コテージ・ペンション）
■地元客の利用が増加している。（土産品）
■天候が安定せず、来店客数と売上が減少した。外国人客の増加を期待していたが、前年並みの実績となった。日本人客のキャッシュレス化が進んでいる。（土産品）
■天候不順による観光客の減少、不漁による水産加工品の仕入値上昇、震災による観光客の不在と、長期停電による商品廃棄が業況を悪化させた。（土産品）
■８月までの店売りは観光客の増加に伴い好調であったが、胆振東部地震により観光客が一気に減少した。（土産品）
■今期途中で一部原材料の価格が上昇した。（土産品）
■インバウンド客、ツアーを利用する団体客が増加した。海外出身の社員を増やした。（土産品）
■震災の影響で客数が減少し、回復していない。（土産品）
■天候不順のため、船が欠航となる日が多く、売上が伸び悩んだ。（船舶賃渡業）
■今期は全社で不調だった。小樽は７月、８月は好調だったが、９月は震災で伸び悩んだ。（レンタカー）
■利用客数は前年同期比で７月増加、８月は天候不良で減少、９月は震災で激減した。（水運業）
■インバウンド客、日本人客ともに前年に比べ来場者数は増加していた。しかし、８月は台風、９月は胆振東部地震により施設が休業し、営業再開後も利用者が回復せず、業況は悪化した。（娯楽業）

［来期の業況について］

■異業種の宿泊業への参入など供給量のバランスが変化する可能性がある。（ホテル）
■最低賃金の上昇による人件費の上昇が懸念される。（ホテル）
■例年を上回る外国人客の利用を見込んでいる。（ホテル）
■９月末時点で宿泊のキャンセルに落ち着きが見られるため、通常通りの業務になると思う。（ホテル）
■今期同様、原材料の値上げ傾向が続くことが確実のため、採算の悪化が懸念される。国際観光都市として、官民が一体となった活動が必要だと感じている。（土産品）
■外国人観光客が増加し、売上が増加すると予想する。（土産品）
■今回の震災で道外、海外観光客が減少する可能性がある。（土産品）
■震災のため、観光客数の回復が遅れると予想する。（土産品）
■観光客離れが続くと予想する。（土産品）
■震災の影響により、観光客の多い店舗ではインバウンドが減少する見込みである。（土産品）
■冬期は外国人客数が落ち込むため、業況改善は見込めない。（飲食店）
■震災の影響で客数が落ち込むと予想される。（飲食店）
■運賃単価を見直し、収支の改善を図る。（船舶賃渡業）
■利用客の回復は見込めない。（水運業）
■胆振東部地震の影響が徐々に回復するものと考えている。（娯楽業）

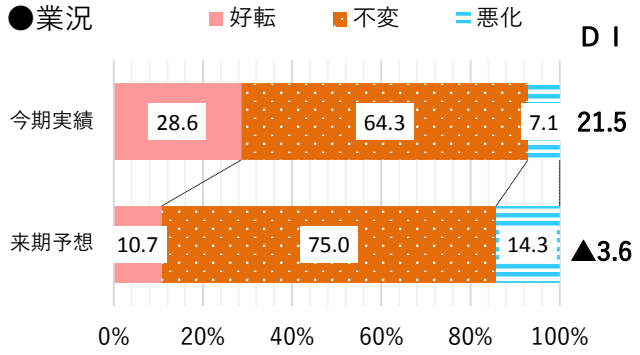
サービス業

※サービス業には、前年同期比のデータを記載しておりません。

業況、売上、採算

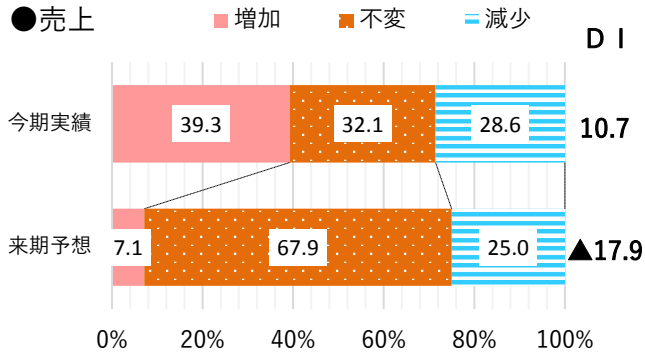
今期（H30.7～9）の業況判断DIは21.5となりました。

来期（H30.10～12）は、今期と比べ業況が悪化すると予想しています。



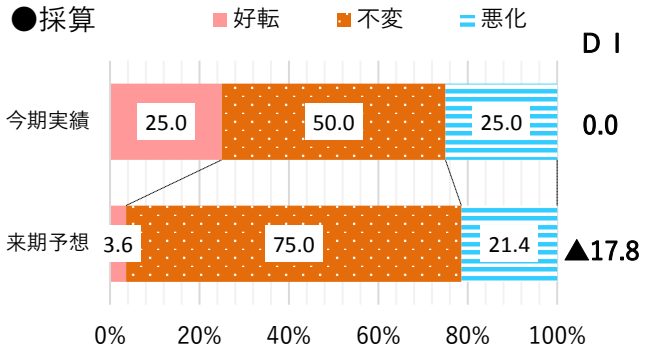
今期の売上高DIは10.7となりました。

来期は、今期と比べ売上高が悪化すると予想しています。



今期の採算DIは0.0となりました。

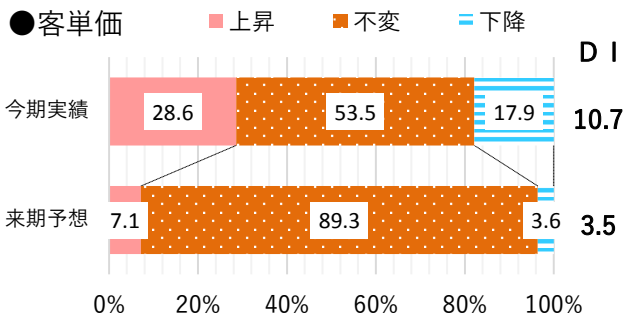
来期は、今期と比べ採算が悪化すると予想しています。



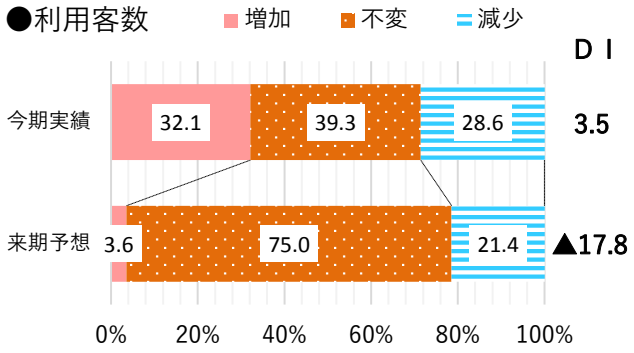
客単価、利用客数、仕入単価

今期の客単価DIは10.7となりました。

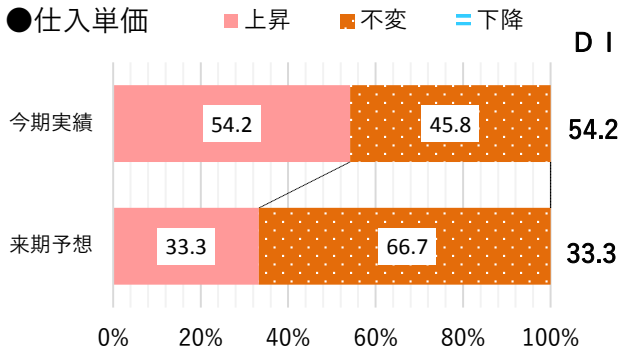
来期は、今期と比べ現状維持の傾向が強まると予想しています。



今期の利用客数DIは3.5となりました。
来期は、今期と比べ利用客数が減少すると予想しています。

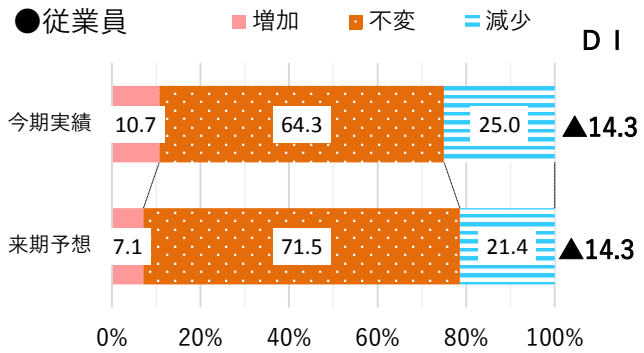


今期の仕入単価DIは54.2となりました。
来期は、今期と比べ仕入単価の上昇傾向が緩和されると予想しています。

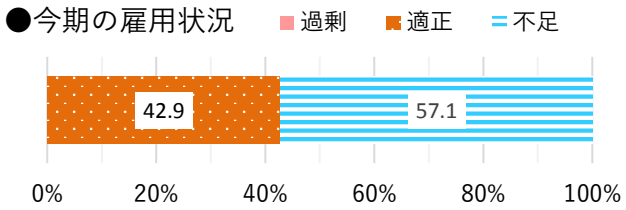


従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲14.3となりました。
来期は、今期と比べ従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は42.9%、不足していると回答した企業の割合は57.1%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」（同位）という回答で、サービス業全体の32.1%を占めています。

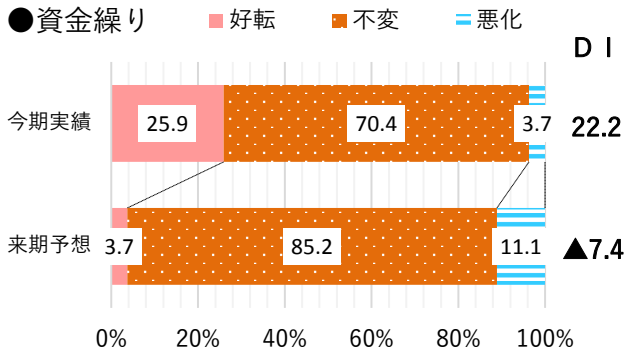
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	9
	不足	9
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	7

資金繰り、設備投資

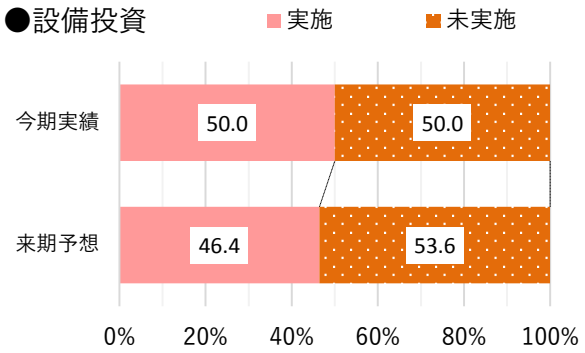
今期の資金繰りDIは22.2となりました。

来期は、今期と比べ資金繰りが悪化すると予想しています。



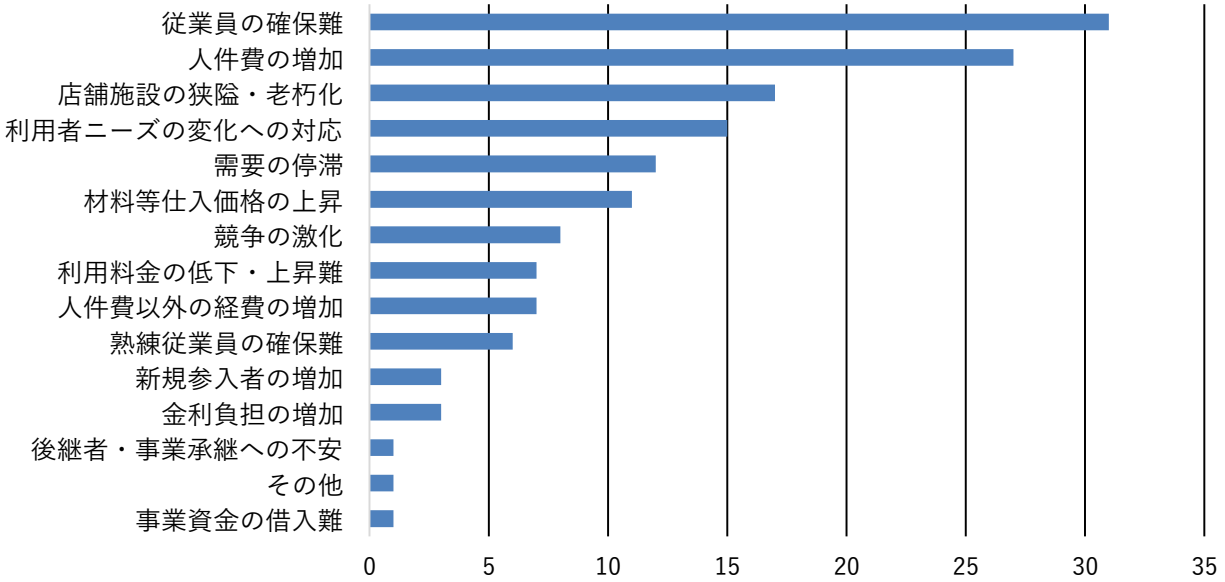
設備投資を実施した企業の割合は50.0%となりました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、「ＯＡ機器」（同位）、2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は46.4％で、今期と比べ減少すると予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「人件費の増加」、3位が「店舗施設の狭隘・老朽化」の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■地域により売上が減少した。売上に対する適正な人員配置の必要性を感じている。（教養・技能教授業）
■売上は増加しているが、経費も増加している。（保険業）
■継続的な取引がある団体客からの発注が順調だった。その他の団体客の利用も増加した。（旅行代理店）
■天災によるキャンセルが多く、来客が偏り断ることも多く売上が伸びなかった。（美容業）
■天候に左右される業種のため、今年は若干人員、収入が落ちた。（スポーツ施設）
■テレビ放映があり業況が良くなった。（飲食店）
■本州や海外からの観光客の来店で売上、客単価が上昇したが、胆振東部地震によるキャンセルが多く、売上は減少している。（飲食店）
■地震の影響で休業、食材の廃棄を行った。（飲食店）
■利用客数は減少し、仕入価格が上昇した。（写真業）
■ビルの管理受託収入等、前期と同額を予算計上していることから、収支に大きな変動はなかった。
９月の震災により、インバウンドを中心に駐車場利用客が減少し、売上も減少したが、７月、８月が好調だったため、３か月の実績を平均すると、前期比で不変となった。（ビルメンテナンス）
■人件費が上昇した。（ビルメンテナンス）

［来期の業況について］

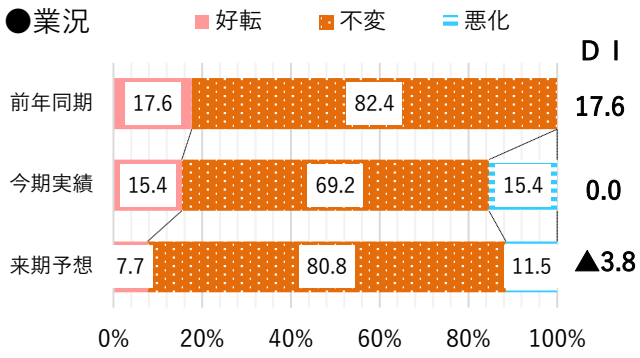
■さらに厳しい状況になると思われる。他業種への進出も考えている。（教養・技能教授業）
■団体客による先行受注が順調なため、業況は良い見込みである。（旅行代理店）
■例年、秋は夏よりも売上が下がるサイクルになっているため、今年も同様の業況になるだろう。（美容業）
■材料の吟味やサービス（接客）の向上に努め、今の状態を維持できるよう努力する。（飲食店）
■最低賃金の上昇や、地震の影響が懸念される。（飲食店）
■地震により観光客数が減少しているため、来期の売上減少が予想される。（写真業）
■人件費の上昇、人材確保難が予想される。（ビルメンテナンス）

建　設　業

業況、売上、採算

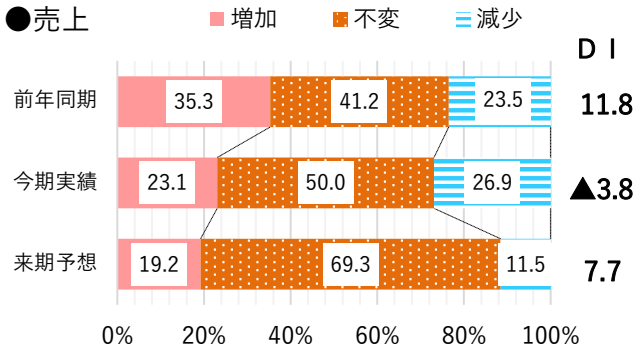
今期（H30.7～9）の業況判断DIは0.0で、前年同期(H29.7～9)と比べ17.6ポイント低下しました。

来期（H30.10～12）は、今期と比べ業況に大きな変化はないと予想しています。



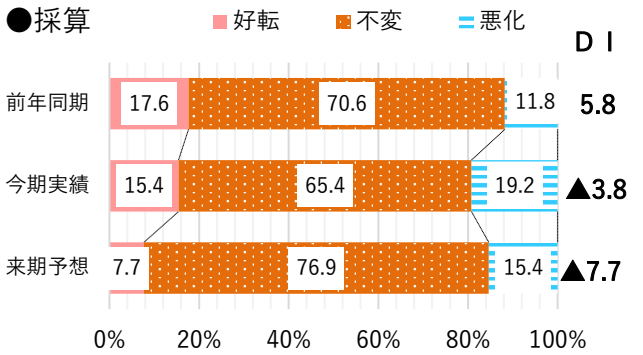
今期の売上高DIは▲3.8で、前年同期と比べ15.6ポイント低下しました。

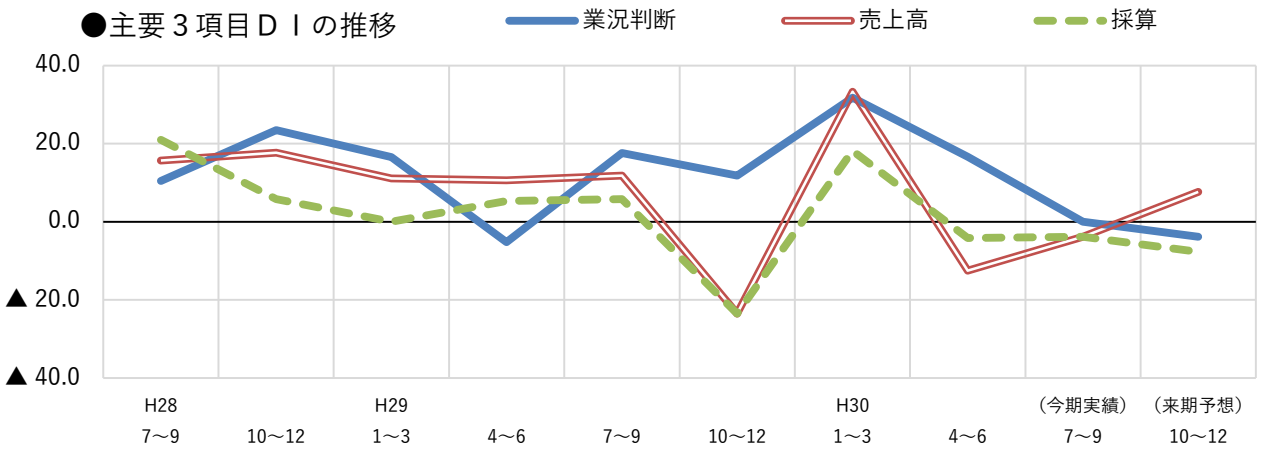
来期は、今期と比べ売上増加の動きが強まると予想しています。



今期の採算DIは▲3.8で、前年同期と比べ9.6ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ採算に大きな変化はないと予想しています。

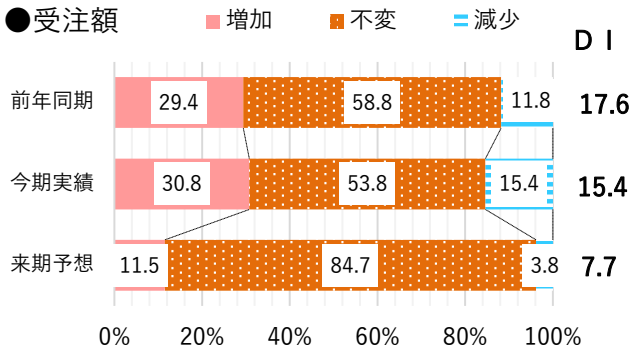




受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

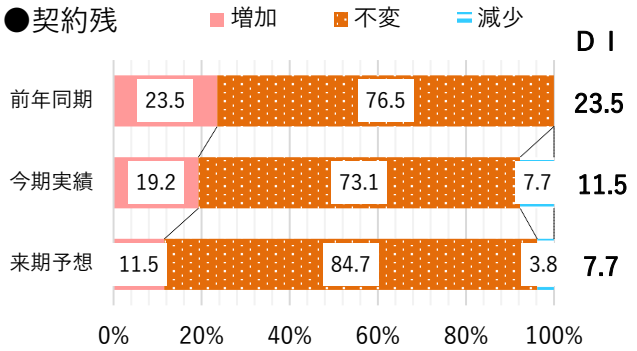
今期の受注額DIは15.4で、前年同期と比べ2.2ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ受注額が減少すると予想しています。



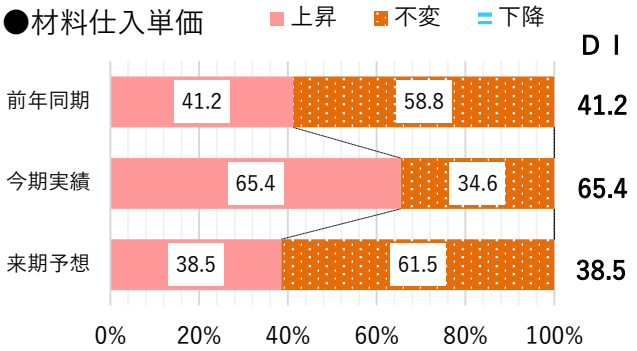
今期の契約残DIは11.5で、前年同期と比べ12.0ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ契約残に大きな変化はないと予想しています。



今期の材料仕入単価DIは65.4で、前年同期と比べ24.2ポイント上昇しました。

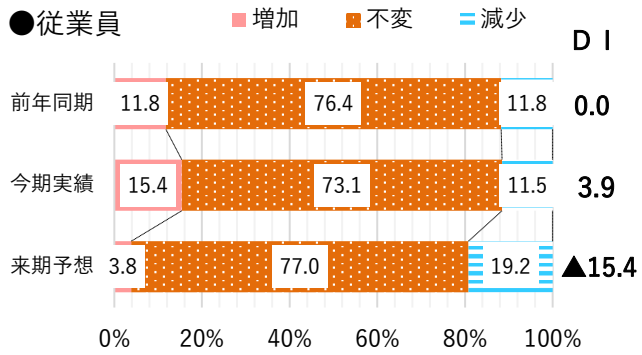
来期は、今期と比べ材料仕入単価の上昇傾向は弱まると予想しています。



従業員、今期の雇用状況

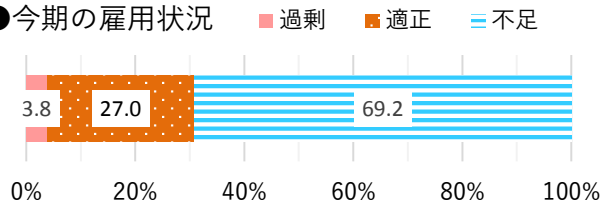
今期の従業員DIは3.9で、前年同期と比べ3.9ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ従業員数は減少すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は3.8%、適正であると回答した企業の割合は27.0%、不足していると回答した企業の割合は69.2%でした。

●今期の雇用状況



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、建設業全体の50.0%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答でした。

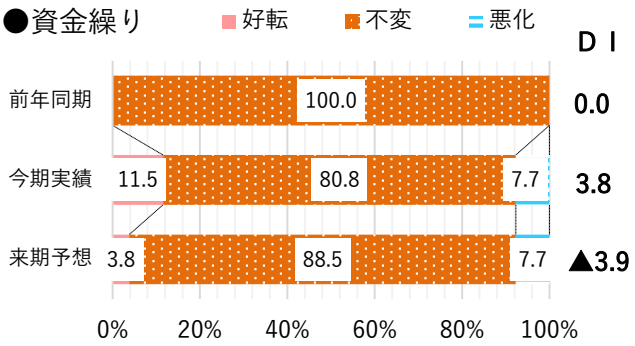
今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	2
不変だった	過剰	1
	適正	5
	不足	13
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	3

資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは3.8で、前年同期と比べ3.8ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ資金繰りが悪化すると予想しています。

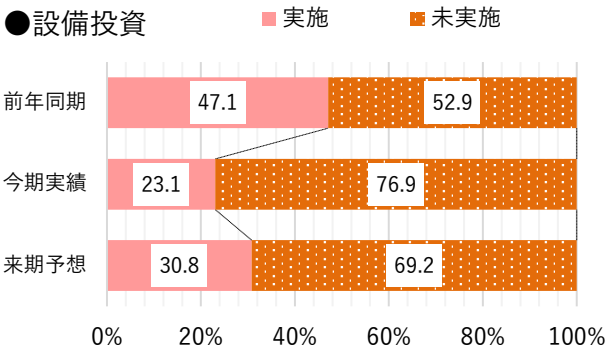
●資金繰り



設備投資を実施した企業の割合は23.1%で、前年同期と比べ24.0%低下しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、「ＯＡ機器」（同位）、2位が「土地」の順です。

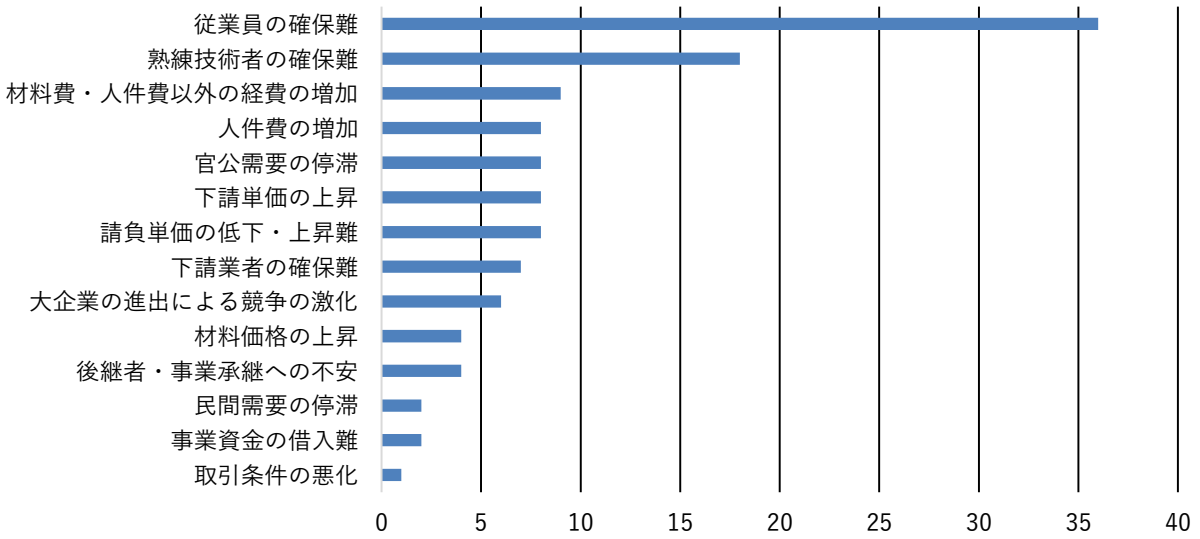
来期に設備投資を計画している企業の割合は30.8%で、今期と比べ増加すると予想しています。

●設備投資



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「熟練技術者の確保難」、3位が「材料費・人件費以外の増加」の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■売上、受注額、従業員数全て適正状態にある。仕入単価も安定している。（一般土木工事業）
■公共工事の受注件数が増加した。（造園業）
■特に好調だった前期と比較すると、低調な推移となった。（一般管工事業）
■前半の受注額は前年度比で増加した。人材不足で外注が増加した。（一般管工事業）
■７、８月は低単価の仕事を受注した。９月は仕事の受注量が増加した。（一般土木工事業）
■売上額、受注件数がともに減少し、材料費が上昇した。（職別工事業）
■受注件数に大きな変動は無かった。（職別工事業）
■全国的な傾向ではあるが、電気工事作業員が減少しており、工事の遅れや完成工事の伸び悩みが見られる。（電気工事業）

［来期の業況について］

■人材不足により、工事の進捗が遅れる。（造園業）
■業況は回復しない。人材確保が課題である。（一般管工事業）
■受注件数は増加しており、人材が確保できれば業況は好転する見込みである。（電気工事業）

市内企業倒産状況

平成30年7月~9月
負債１千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は1件、前年同期比不変
負債総額は2,600万円、前年同期比減少

	倒産件数	負債総額
	1件	**2,600万円**
前年同期比	件数　±0件 （前年同期　1件）	負債　-1億9,200万円 （前年同期 2億1,800万円）

■7月
なし

■8月
なし

■9月
自動車板金・整備（負債2,600万円：業績不振による破産）の1件が発生した。

市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

平成30年7月~9月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は116件、前年同期比増加
新設着工住宅戸数は64棟185戸、前年同期比増加

	建築確認申請受付件数	新設着工住宅戸数
	116件	**68棟126戸**
前年同期比	件数　＋16件 （前年同期　100件）	戸数　＋3棟-18戸 （前年同期　65棟144戸）

※変更確認又は変更通知を除く。